

1. 基礎科目

《教養基礎科目》

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	導入演習 Seminar of Introduction			担当教員	各担任
	開講内容	学年・学期	1・半期		
	履修の方法	必修	単位数	2	関連資格
授業の概要					
導入演習は大学生活をうまくスタートさせるための授業であり、学習や生活面で少しでも早く新しい環境に慣れるよう支援していきます。学生相互の交流を促し、授業の仕組み学習の仕方を説明し、仙台大生になっていくための意識化を図っていきます。					
授業の一般目標					
修学生活の設計を立て、コミュニケーションや学習スキルを身につけ、「高校生」から「大学生」へそして「仙台大生」としての意識を高めていくことができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	テーマに合った内容を理解し、具体的内容を説明できる。			
■	情意的領域	積極的に参加し、仲間と協力して行うことができる。			
■	技能表現的領域	修学生活の計画を作成でき、テーマごとの発表等の技術を身につけ、表現できる。			
授業計画(全体)					
実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態で行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 導入演習のねらい、本授業の流れ、時間割の作り方について説明する。 [授業外学習] 自らの大学生活について考えてみる。履修登録表を作成する。			⑨	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(3) [内容] 「教員と学生が共に作る大学」について、グループで話し合う。 [授業外学習] 授業の復習
②	[テーマ] 親睦 [内容] やや詳しい自己紹介、あるいはペアの相手をクラス全員に紹介するなど、新しい仲間とのコミュニケーションを図る。 [授業外学習] 新しい仲間と情報交換し、履修登録表を互いに確認してみる。			⑩	[テーマ] 体育大生とモラル(1) [内容] 体育大生とその他の学生との違い、体育大生のモラルについて考える。 [授業外学習] 事前に資料を読んでおくこと
③	[テーマ] 修学と生活の設計(1) [内容] 学習方法、生活の仕方などについて先輩の体験談を聞き、または話し合いながら、大学生活の見通しを立てる。 [授業外学習] 卒業までの計画や目標について考えてみる			⑪	[テーマ] 体育大生とモラル(2) [内容] 資料に基づきグループ内で意見を出し合いディスカッションする。 [授業外学習] 発表資料の作成など、発表準備をする。
④	[テーマ] 修学と生活の設計(2) [内容] 卒業までの計画・目標、前期の計画・目標を設計する。 [授業外学習] これまでの生活を振り返り、目標の確認をしてみる			⑫	[テーマ] 体育大生とモラル(3) [内容] プレゼンテーションの仕方、レジュメの作り方を説明し、グループで発表用資料を作成する。 [授業外学習] 発表資料の作成など、発表準備をする。
⑤	[テーマ] 大学と大学生Ⅰ [内容] 学科長の講話。仙台大学の歴史も紹介する。 [授業外学習] 仙台大学の歴史について自分でも調べておく			⑬	[テーマ] 体育大生とモラル(4) [内容] クラス内の発表会を行い、相互に評価する。 [授業外学習] 発表資料の作成など、発表準備をする。
⑥	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(0) [内容] 自学・自習支援システムの活用とスポーツテストの実施。 ※ スポーツテストは4週の期間のいずれかで実施 [授業外学習] 大学での学習に必要な基礎的事項について確認しておく			⑭	[テーマ] 体育大生とモラル(5) [内容] 学科ごとによる全体発表会を行い、相互に評価する。 [授業外学習] 発表資料の作成など、発表準備をする。
⑦	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(1) [内容] 「いまどきの大学・いまどきの大学生—ユニヴァーサル化」のテーマで、大学生であることの意味について考える。 [授業外学習] テキストに出てくる漢字や用語について事前に調べておく			⑮	[テーマ] 後期に向けて [内容] 前期を振り返り、夏休みの過ごし方について各自作成する。 [授業外学習] 演習の振り返りと自己評価
⑧	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(2) [内容] 「大学で身につけるべきこと—学士力」についてグループで話し合うなど、グループ活動を行う。 [授業外学習] テキスト等に出てくる漢字や用語について調べておく			⑯	[テーマ] まとめ [内容] これまでの演習内容をまとめ、必要に応じて内容を補足する。 [授業外学習] これまでの資料などに目を通しておく
成績評価方法(方針)					
出席を重視する。授業の受講態度、授業内レポート、宿題・授業外レポート、作業への取り組みや発表などを参考にして、総合的に成績評価を行う。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要である。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					実施しない
授業内レポート		○	○	○	25%
授業外レポート		○	○	○	25%
演習・実技		○	○	○	25%
授業態度		○	○	○	25%
出席		◎	◎	◎	欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない ・授業中は携帯電話をかばんの中に入れておくこと ・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。シラバスを参考に、積極的に予習・復習を行うこと ・自己学習(時間外学習、ボランティア活動等)の成果や授業中のテーマに関する自らの考えについても積極的に発表することを期待する ・クラスの合同発表の場合は、実施教室等は掲示により周知する ・実施上の都合により、進行順や教材を変更する場合がある 					
関連科目	キャリアプランニングⅠ、情報処理、学習基礎演習				
教科書	オリエンテーション時に資料を配布			参考書	オリエンテーション時に資料を配布
連絡先	各担任の研究室				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	情報処理 Data Processing (L.)			担当教員	内野秀哲・相場徹	
	開講内容	学年・学期	1・半期			授業方法
	履修の方法	必修	単位数	2	関連資格	
授業の概要						
コンピュータの基礎的利用方法に関する知識は、必須の素養として養成されるところであり、様々な課題や問題の解決手段としてITを活用することは、広い範囲で効果的となる。本講では、基礎知識の学習と基本操作の実習を通じて、意義と効用について解説する。						
授業の一般目標						
ICT関連の代表的ツールを活用し、適切に情報の受発信、保存、加工が行えるようになる。また、効率的な処理判断・手段の選択ができるようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	1. ICTに関する基本的な事柄が説明できる。2. 状況や対象に応じて処理機能を選択できる。				
□	情意的領域					
■	技能表現的領域	適切な手段で情報の獲得、保存・加工ができる。				
授業計画(全体)						
本講では主に「インターネット関連ツール」と、「日本語処理ツール」、「表計算ツール」、「プレゼンテーションツール」などのアプリケーションの操作実習と平行して、ICTの基礎理論についての概説を行なう。また、課題への取り組み時にはグループワークを採り入れ、対話力の向上とあわせて問題解決力の獲得を目指す。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 情報倫理について [内容] 情報倫理について説明 [授業外学習] オリエンテーション資料を事前によく読んでおくこと			⑨	[テーマ] 講義3:論理式と論理回路① [内容] データ処理の仕組みについて、音声データの処理を例(論理数学)に取り上げて解説を行う [授業外学習]	
②	[テーマ] 情報処理の学習について [内容] 授業の進め方と履修方法等や、大学で情報処理と情報化を学ぶことについて概説する [授業外学習] 事前に学内情報端末利用者講習を受けておくこと			⑩	[テーマ] 実習3:表計算アプリケーション2 [内容] 教材アプリケーションにて、グラフ作成や表示の工夫などの応用操作を実習する [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと	
③	[テーマ] タイピング1 [内容] 前半でホームポジションとタッチタイピングについて解説し、後半は目標設定のための擬似タイピング試験を実施する [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること			⑪	[テーマ] 講義4:論理式と論理回路② [内容] 論理回路を用いたクイズを検討課題として提示し、論理演算と論理回路について解説する [授業外学習]	
④	[テーマ] 講義1:情報処理を考える [内容] 情報と情報伝達についての検討課題を提示し、「情報」について説明する [授業外学習]			⑫	[テーマ] 実習4:プレゼンテーションツール [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によってプレゼンテーションツールの操作実習を行う [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと	
⑤	[テーマ] 実習1:ワードプロセッサ [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によって、ワードプロセッサの操作実習を行う [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと			⑬	[テーマ] タイピングのまとめ [内容] 前半で大学生と関係の深いICT関連の社会的現象を紹介(展望を試みる)し、後半で最終の擬似タイピング試験を実施する [授業外学習]	
⑥	[テーマ] 講義2:情報について [内容] 情報処理の根幹領域にある「サイバネティクス」について紹介し、「情報」についてその量と単位を中心に説明する [授業外学習]			⑭	[テーマ] 講義のまとめ [内容] 講義部門のまとめとして、筆記課題を実施する [授業外学習]	
⑦	[テーマ] 実習2:表計算アプリケーション1 [内容] 教材アプリケーションにて、情報入力や計算処理などの基本操作を実習する [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと			⑮	[テーマ] 実習のまとめ [内容] 操作実習部門のまとめとして実技課題を実施する [授業外学習]	
⑧	[テーマ] タイピング2 [内容] 前半でキーボード・マウスなどの入力デバイスについて解説し、後半は目標設定のための擬似タイピング試験を実施する [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること			⑯	[テーマ] テスト(課題提出) [内容] 全ての課題の期限日として提出を受け付ける [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
講義部門と実習部門の最終課題(テスト)によって成績を評価する。授業内外のレポートや出席状況などは単位認定のための必要条件とする(不足がある場合には評価対象としない)。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					対象としない	
授業内レポート	◎		◎		100%	
授業外レポート			○		欠格条件	
演習・実技					加減点要素	
授業態度					加減点要素	
出席					欠格条件	
<ul style="list-style-type: none"> ・初回の情報倫理の受講は施設の利用条件となるので必須 ・講義と実習はクラスごとに交互実施する(座席指定あり) ・講義、実習どちらか一方でも2回以上の欠席で欠格となるので要注意 ・期限内に課題が提出できない場合は欠格となるので要注意 ・欠席などの各種届出は所定の用紙で授業時間内に提出する(厳守) ・いかなる事情があっても、欠席分の不足は指定された手段で補うこと ・単位認定には、講義/実習/タイピングの全てに出席し、課題に合格する必要がある ・履修期間中のメールチェック、USBメモリの用意等を怠らないこと ・本講義は、2名の担当教員の2クラス同時開講(交互実施)である 						
関連科目						
教科書	使用しない(プリント教材を使用)			参考書	必要に応じて授業内で提示	
連絡先	4体1F 内野研究室 オフィスアワー 火曜14:20-15:50					

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	学習基礎教養演習			担当教員	各教員
	Introduction to Academic Writing				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					
<p>学習において母語の能力はもっとも重要な要素である。その能力は、大学入学以前にすでに形成されており、大学ではそれを前提として教育が行われるはずであるが、多くの学生にこの能力のさらなる醸成が求められていることは、否定できない事実である。そこで、この授業では、大学教育で日本語を使用する際、もっとも重要な枠組みであるパラグラフの考え方を学び、パラグラフを構成できるようにする。</p>					
授業の一般目標					
<p>1. 語彙の増大(日本語力と語彙は強い相関がある)。2. 格の正しい文を書けるようになること。3. ひとつのパラグラフを構成できるようになること。4. パラグラフを積み重ねて、ひとつの主題あるいは主張に収められる文章(小論文やレポートなど)を書けるようになる。5. その際同時に、文献検索、引用についても学ぶ。6. 完成したレポートをプレゼンテーションし、相互にディスカッションする。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	パラグラフ構造を理解する。ある主題について分節化の重要性を理解する。			
■	情意的領域	課題に熱心に取り組む。			
■	技能表現的領域	適切なパラグラフが書けるようになる。			
授業計画(全体)					
<p>1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. 自分以外の学生の解答を、学生同士で閲覧して気づいたこと(評価、コメント)を書く。3. 他の学生が自分の解答について記述した点を参考にしながら、当該の授業で学んだこと、あるいは気づいたことを改めて記入する。4. 教員はそれを回収し、添削、評価を加えた上で、次の授業の際に返却する。5. 語彙の訓練は随時行う。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] この授業の目的の説明、日本語能力試験および破格の文の添削 [内容] 自分の日本語能力を知るために試験を行う(40分)。後半では、破格の文章を添削し、格の正しさにたいする意識を養う。 [授業外学習] 配布されたプリントを読む</p>			⑨	<p>[テーマ] 800字程度の小論文を完成する(3)小論文の完成と評価 [内容] 小論文を完成させ、学生同士で評価する。 [授業外学習] 次回の目標規定文を考えてくる。</p>
②	<p>[テーマ] パラグラフの構造(1)。ひらがな文の漢字かな混じり文への変換 [内容] パラグラフの基本構造を理解し、パラグラフを書く。句読点、段落落きのすべてひらがなで書かれた文を漢字かな混じり文にする。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑩	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(1)目標規定文 [内容] 学生個人の関心にしたがって目標規定文を考える(教員が適切と認めるもの)。それに至るための展開を構想する(パラグラフ7つか8つ)。 [授業外学習]</p>
③	<p>[テーマ] パラグラフの構造(2) [内容] パラグラフにおけるtopic sentence, support sentence, concluding sentenceの再確認。paragraph outlineの作成方法およびパラグラフへの展開。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑪	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(2)パラグラフアウトライン [内容] 各パラグラフのトピック・センテンスを考え、パラグラフ・アウトラインを構想する。参考資料(文献検索)とその引用について、教員の助言が必要。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>
④	<p>[テーマ] 分類のパラグラフを書く [内容] パラグラフの代表的なタイプについて以下3回にわたって学習する。今回は、パラグラフの基本である分類について。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑫	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(3)パラグラフ展開(1) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。その際、アウトラインの変更を余儀なくされる場合もありうる。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>
⑤	<p>[テーマ] 比較・対照のパラグラフを書く [内容] 比較・対照のパラグラフのどちらかを書く。その際、特にトピック・センテンスを何にするかが重要となる。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑬	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(4)パラグラフ展開(2) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。 [授業外学習]</p>
⑥	<p>[テーマ] 原因・結果のパラグラフを書く [内容] このタイプのパラグラフは、かなり使用頻度が高いので、とくに習熟する必要がある。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑭	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートの完成(5)完成し文集を作る [内容] 最終的にレポートを完成し、それを文集としてまとめる。 [授業外学習] 他の学生のレポートを読んでくる。</p>
⑦	<p>[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(1)目標規定文の理解とその展開 [内容] 全学生が同じ主題について目標規定文を作成し、それに到達するための3つか4つのパラグラフ展開を考え、パラグラフアウトラインを書く。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑮	<p>[テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して著者も応答する。 [授業外学習]</p>
⑧	<p>[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(2)パラグラフを書く [内容] 前回の構成にしたがって、パラグラフ完成させる。その際、書く途上で、目標規定文、アウトラインの修正はありうる。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす</p>			⑯	<p>[テーマ] [内容] [授業外学習]</p>
成績評価方法(方針)					
<p>毎回練習を反復する授業なので、授業態度も評価対象となる。その上で、課題にたいする取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題にたいする解答、レポートの出来不出来がもっとも成績に関係する。</p>					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		○	○	◎	20%
授業外レポート		○		○	30%
演習・実技					
授業態度		◎			50%
出席					欠格条件
関連科目	特定の関連科目はないが、ここで学ぶことは、あらゆる科目の基礎となると言う意味で、すべての科目に関連していると言える。				
教科書	プリントを配布する			参考書	授業中に指示する
連絡先	各授業担当者				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	英語A(含む外国語コミュニケーション)			担当教員	鎌田・菊地博・Parangi・(志子田)
	English A (including Foreign Language Communication)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。					
授業の一般目標					
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 TOEIC400点を到達目標とする。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。					
授業テーマとその内容					
<ol style="list-style-type: none"> この科目の単位を修得するためには複数の技能にわたる教材に取り組まなければならない。 この科目は「Grammar(文法)・「Intensive Reading(精読)・「Speed Reading(速読)・「Writing(作文)・「Listening(聞き取り)・「Speaking(会話)・「語学学習システム」の7分野で構成される。 それぞれの分野では習熟度に応じた教材・課題が用意されている。学生は自分の能力に合わせて教材・課題を選択することになる。なお、「語学学習システム」はe-learning教材であり、情報処理演習室や図書館のPCを使用して学習し、授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。 取り組んだ課題は採点され、その分野の獲得ポイントとして認められる。ただし、一回の授業で同じ分野を2度受講することや、同じ分野の同じ課題で重複してポイントを得ることはできない。 授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar(文法)・「Intensive Reading(精読)・「Speed Reading(速読)・「Listening(聞き取り)」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、この科目の単位を修得できる。 出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。 					
16回目 ポイント確認日					
[授業外学習の指示等]「語学学習システム」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。					
成績評価方法(方針)					
授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上:「秀」、599～400ポイント:「優」、300～399ポイント:「良」、200～299ポイント:「可」、200ポイント未満:「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	◎				
授業外レポート	○				
演習・実技					
授業態度					
出席					
1. 教員は基本的に学生の学習を支援する役割に徹することになるので、学習に主体的に取り組むのは学生自身であることを常に認識すること。 2. 学生一人ひとりには、どのように授業を受けるかについての自由が与えられている。一方、その結果については自分で責任を取ることが求められている。計画的に授業を受けるようにしてもらいたい。 3. 取り組んでいる「課題」でわからないことがあれば、教員に積極的に質問すること。 4. 獲得したポイントをコンピュータに入力をしなかった場合やミスをした場合は加算されないの、入力にはくれぐれも注意すること。					
関連科目	英語B(含む外国語コミュニケーション)				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地研究室A棟515、バラング研究室A棟511				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	英語B(含む外国語コミュニケーション)			担当教員	鎌田・菊地博・Parangi・(志子田)
	English B (including Foreign Language Communication)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
英語Aと同様に、英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。					
授業の一般目標					
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 TOEIC450点を到達目標とする。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。					
授業テーマとその内容					
<ol style="list-style-type: none"> この科目の単位を修得するためには複数の技能にわたる教材に取り組まなければならない。 この科目は「Grammar(文法)」「Intensive Reading(精読)」「Speed Reading(速読)」「Writing(作文)」「Listening(聞き取り)」「Speaking(会話)」「語学学習システム」の7分野で構成される。 それぞれの分野では習熟度に応じた教材・課題が用意されている。学生は自分の能力に合わせて教材・課題を選択することになる。なお、「語学学習システム」はe-learning教材であり、情報処理演習室や図書館のPCを使用して学習し、授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。 取り組んだ課題は採点され、その分野の獲得ポイントとして認められる。ただし、一回の授業で同じ分野を2度受講することや、同じ分野の同じ課題で重複してポイントを得ることはできない。 授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar(文法)」「Intensive Reading(精読)」「Speed Reading(速読)」「Listening(聞き取り)」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、この科目の単位を修得できる。 出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。 					
16回目 ポイント確認日					
[授業外学習の指示等]「語学学習システム」は授業中以外の時間にも課題に取り組むことが出来る。					
成績評価方法(方針)					
授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上:「秀」、599～400ポイント:「優」、300～399ポイント:「良」、200～299ポイント:「可」、200ポイント未満:「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	◎				
授業外レポート	○				
演習・実技					
授業態度					
出席					
1. 教員は基本的に学生の学習を支援する役割に徹することになるので、学習に主体的に取り組むのは学生自身であることを常に認識すること。 2. 学生一人ひとりには、どのように授業を受けるかについての自由が与えられている。一方、その結果については自分で責任を取ることが求められている。計画的に授業を受けるようにしてもらいたい。 3. 取り組んでいる「課題」でわからないことがあれば、教員に積極的に質問すること。 4. 獲得したポイントをコンピュータに入力をしなかった場合やミスをした場合は加算されないの、入力にはくれぐれも注意すること。					
関連科目	英語A(含む外国語コミュニケーション)				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊地研究室A棟515、バラング研究室A棟511				

《教養展開科目》

(人文分野)

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	哲学入門			担当教員	小松恵一
	Introduction to Philosophy				
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					
現代に生きる人間が考えるべきテーマが扱われる。日常的に遭遇する諸問題に対処する際に、役に立つであろう道具を提供したい。だから、現実にある具体的な問題を取り上げて、まず始めに、何が問題なのか、つまり問題の意味を理解する。さらにそれを前提として、さまざまな考え方の筋道が可能であることをみずから発見できるようにしたい。					
授業の一般目標					
1. 考えるということに慣れ、それが実はおもしろいものなのだとことを発見する。2. 陳腐な常識に囚われず、自由な発想でものを考える。3. いろいろな考え方の可能性を見出す。4. そのさまざまな考え方を見比べたうえで、自らの考え方の方向を見出す。5. 以上の前提として、日本語でものを考える、概念的な思考ができるように訓練する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	さまざまな考え方を理解できる。			
□	情意的領域				
■	技能表現的領域	自分の考えを表現できる。			
授業計画(全体)					
考える際に概念を用いるが、概念の使用に慣れるために、哲学的発想についてまず説明し、その後、とくに人間と人間の間をめぐらる問題(たとえば、社会に生きることと個人、大人であることの意味、権威主義の問題、コミュニケーションの構造)、さらに、その応用として、体罰をめぐらる問題、インフォームド・コンセントという概念の重要性、日本社会とこれからの人間のあり方などを扱う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 哲学とは何か [内容] 問題を考えるとはどういうことなのか。概念と概念の関係を問うことによって、それを確認する。 [授業外学習] シラバスをよく読む。(1h)			⑨	[テーマ] 社会の中の権威主義 [内容] 縦社会、同調(圧力)などの日本社会を特徴づけるとされる概念を説明し、それらが有意義であるかどうかを考える。 [授業外学習] 授業外レポートを書く。(5h)
②	[テーマ] 問いと答えの論理—理解するという事 [内容] 「理解」というあり方は、どのような構造を持つのかを、「問いと答え」の論理から学ぶ。 [授業外学習] 自分で考えた問いと答えについて、その前提を抜き出す(1h)			⑩	[テーマ] インフォームド・コンセント1 [内容] パターンリズムの問題点、インフォームド・コンセントという考え方の由来。もともとは医療の概念である。 [授業外学習] この概念の市民社会における重要性を整理する(1h)
③	[テーマ] 「自己」、「私」とは何か [内容] 「私」や「自己」は関係としてはじめて存在しうることを理解する。 [授業外学習] 返却された授業内レポートを振り返る。(1h)			⑪	[テーマ] インフォームド・コンセント2 [内容] しかし、この概念は、市民社会においても基本的である。political correctnessと posttruthについても言及する。 [授業外学習] 返却された授業外レポートを振り返る。(1h)
④	[テーマ] 「言葉」、「言語」のあり方とコミュニケーション [内容] ことばの機能、ことばの意味について、ヴィットゲンシュタインの考え方を説明する。そこからコミュニケーションについて、その身体性を理解する。 [授業外学習] 具体的コミュニケーションを構造化してみる。(1h)			⑫	[テーマ] 人間集団の類型 [内容] 人間が作るさまざまな規模の集団が形成される根拠により、集団を類型化する [授業外学習] 具体的な集団について、どの類型に当てはまるか考える(1h)
⑤	[テーマ] コミュニケーションの前提条件 [内容] コミュニケーションが成立するための前提条件を、アーレントとハーバーマスを参考に引き出す。理想的対話状況と非対等的な人間関係。 [授業外学習] 返却された授業内レポートを振り返る。(1h)			⑬	[テーマ] 国家という集団 [内容] 国家という人間集団形成の理由とその構造について。さまざまな国家の成り立ちから考える。 [授業外学習] 日本の場合、それはどのような集団であるか予習する(1h)
⑥	[テーマ] 「子供」と「大人」 [内容] 「大人」であることの意味について、カントの考え方を紹介する。 [授業外学習] 生活の場面で大人であるような行為の例を考える(1h)			⑭	[テーマ] 国家と個人の関係 [内容] この関係について、二三の学説を紹介する。とくに、問題としての日本という国家の場合、この関係はどうなっているか。 [授業外学習] 自分の身の回りから発想して、国家との結びつきを見出す(1h)
⑦	[テーマ] 権威主義的人間と大衆社会 [内容] アドルノらによる権威主義的人間の研究を解説する。Fスケールを紹介する。 [授業外学習] 自分のなかにある権威主義を検討してみる(1h)			⑮	[テーマ] 国家と国家の関係とナショナリズム [内容] 国家は別の国家と関係する。近年はグローバル化の動向が不可避であるが、それと同時にナショナリズムも勃興している。 [授業外学習] 試験の準備をする(5h)
⑧	[テーマ] 権威主義の権力関係 [内容] 前回と関係させて、近代社会における権力のあり方をフーコーに基づいて解説する。 [授業外学習] 具体例を挙げ、その構造を引き出す(1h)			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
最後の筆記試験、40%。授業内レポート、30%。授業外レポート、30%とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		◎	40%
授業内レポート		◎		◎	30%
授業外レポート		◎		◎	30%
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	教科書はとくにない。			参考書	参考書は授業内で指示する。
連絡先	小松恵一研究室A棟506、オフィスアワー水曜日4限				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	現代の思想			担当教員	小松恵一	
	Introduction to Modern Thoughts					
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数			2
授業の概要						
スポーツ哲学という分野で取り上げられているトピックを紹介する。そもそもスポーツとは何か、スポーツのルール、ルールと身体のパフォーマンスとの関係、スポーツにおけるコミュニケーション、スポーツへの欲求などを扱う。その際、多くの仙台大学の学生は、スポーツが生活と関心の中心にある人が多いので、自分のスポーツ経験から出発して、それを概念的に一般化することができるようにしたい。						
授業の一般目標						
ある程度抽象的な概念を使って「考える」ということの意味を理解する。その際、各自のスポーツ体験、発想が概念的思考と無縁ではなく、かえって、それが基盤になってはじめて、各自の体験の意味が明らかとなることを理解する。より具体的には、自分に関係ある問題として、自分の言葉で問題のありかかを表現し、スポーツの諸問題について自分の意見を表明できるようになることが目標である。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	ある程度哲学的な言説を理解できるようになる。				
□	情意的領域					
■	技能表現的領域	自分の問題として取り扱われる諸問題を自分の言葉で表現できる。				
授業計画(全体)						
1回目から5回目までは、スポーツの構造にかんする説明。6回目から8回目は、スポーツへの欲求の源泉を扱う。9回目から11回目までは、オリンピック問題を考え、それ以降は、ドーピング問題を現代社会の根本的動向にかかわるものとして把握する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 「遊び」、「ゲーム」そして「スポーツ」 [内容] 一見して類似した概念間の異同、それらの間の構造的区別、ならびに関係を問う。 [授業外学習] シラバスをよく読む。(1h)			⑨	[テーマ] 古代ギリシャにおけるオリンピック [内容] エリアスの前記著作と対比して、古代ギリシャにおけるオリンピックの特徴を考察する。 [授業外学習] 現代のオリンピックとの違いを整理する(1h)	
②	[テーマ] 人間の活動におけるスポーツの位置 [内容] スポーツが人間の活動全体の中でのどのような位置を占め、他の活動どのような関係にあるかを考える。sport-related complexという概念の提示。 [授業外学習] 自分の諸活動とスポーツの関係を考える(1h)			⑩	[テーマ] クーベルタンのオリンピックの理念 [内容] 近代においてオリンピックを再興させたクーベルタンの思想を概括する。その思想は、問題点を含むと同時に現代のオリンピックの問題を提起する。 [授業外学習] クーベルタンについて調べる(1h)	
③	[テーマ] スポーツのルールが決めていること [内容] ルール(規則)のあり方をヴィットゲンシュタインの言語ゲームという概念を参考に説明する。 [授業外学習] ヴィットゲンシュタインについて調べる(1h)			⑪	[テーマ] 巨大化したオリンピックの問題点 [内容] ナショナリズム、商業主義、経費などオリンピックはさまざまな問題を抱えている。ここではとくに、ナショナリズムの問題を取り上げる。 [授業外学習] 自らのうちにあるナショナリズムについて考える(1h)	
④	[テーマ] ルールと身体動作(パフォーマンス) [内容] 前回は引き続き、ヴィットゲンシュタインからルールの理解と身体動作の関係について説明する。 [授業外学習] 自分の身体動作とルールの関係を考える(1h)			⑫	[テーマ] ドーピングと現代社会 [内容] ドーピングは、スポーツに限った問題ではない。身体の変更という大きな流れのなかでドーピング問題を位置づける [授業外学習] 身体の変更の事例を考える(1h)	
⑤	[テーマ] スポーツとコミュニケーション [内容] コミュニケーションとはたんに言語によるだけではない。そこには、身体が重要な要素としてかかわってくる。それをスポーツを例に説明する。 [授業外学習] スポーツと言語の関係を自分の場合を例に考える(1h)			⑬	[テーマ] ドーピング禁止の理由への批判 [内容] フェアネス、健康、社会通念というドーピング禁止の一般的理由ならびにWADAの考え方を批判的に紹介する。 [授業外学習] ドーピング禁止の一般的理由を整理する(1h)	
⑥	[テーマ] 欲求の一般理論 [内容] はじめに欲求の一般理論をミメシスという概念から説明する。その際準拠するのは、ジラルの欲求理論である。 [授業外学習] 自分のスポーツへの欲求の起源を考える(1h)			⑭	[テーマ] ドーピング禁止の真の理由 [内容] ドーピングは禁止されるべきである。それは上記の理由によるというよりも、スポーツの成立条件にかかわっているからこそ禁止されるべきなのである。 [授業外学習] 一般的理由と今回の理由とを対比してみる(1h)	
⑦	[テーマ] アスリートの欲求 [内容] 上記の理論をアスリートに応用して考えてみる。欲求の源泉とその展開の具体化を試みる。 [授業外学習] 自分のスポーツへの欲求の展開を考える(1h)			⑮	[テーマ] スポーツの将来 [内容] これまでの授業全体を振り返り、現代におけるスポーツの限界を見定める。 [授業外学習] 試験の準備をする(5h)	
⑧	[テーマ] 興奮の探求としてのスポーツ [内容] ノルベルト・エリアスの『文明化の過程』およびダニングとの共著『興奮の探求』を解説する。 [授業外学習] 現代において興奮が求められる諸事例を挙げる(1h)			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
最後の筆記試験、60%。授業のなかで書いてもらう授業内レポート、40%。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	出席する。 ノートをとる。 質問する。 私語はダメ。
定期試験		◎		◎	60%	
授業内レポート		◎		◎	40%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度						
出席						
関連科目						
教科書	教科書はない。			参考書	参考書はその都度指示する	
連絡先	小松恵一研究室B506(オフィス・アワー、水曜日4限)					

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名		心理学概論 Introduction to Psychology (L.)		担当教員	平田 忠
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
心理学は人の行動について研究する学問です。心理学では、なぜ人はある行動をするのか、どのような条件の下でどのような行動をするのかなど、人の行動の法則性について調べます。この科目では、現代心理学の主な領域をとりあげ、それぞれの領域で人間の行動にはどのような法則性や特徴があるのかについて解説をします。					
授業の一般目標					
授業で紹介される、いろいろな種類の人の行動について、どのような法則性があるのかについて理解を深めるとともに、それを基礎として、自分自身の行動について、また自分の周りにいる人々の行動について、さらに自分と周りの人との関係について分析的客観的に考える態度を身につけることが目標です。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	さまざまな人の行動の法則性を理解する。			
■	情意的領域	人の行動を客観的に考える態度を身につける。			
■	技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。			
授業計画(全体)					
心理学の中の五つの領域－感覚・知覚、学習・記憶、動機づけ、人格、社会心理－をとりあげます。これまでの各領域における研究で人の行動についてどのようなことが分かっているのかについて解説をします。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 授業の内容、進め方についての説明、心理学とはどのような学問か [授業外学習]心理学では何を研究するのかを考えてみる(1時間程度)			⑨	[テーマ] 動機づけ② [内容] 私たちの社会性と関わりを持つ、行動の原因について考える [授業外学習]自分の行動を振り返り、その理由を考えてみる(1時間程度)
②	[テーマ] 感覚と知覚① [内容] 自分自身と周囲の世界について知る働きとその仕組みについて考える [授業外学習]各感覚をなくしたら、どの程度を想像してみる(1時間程度)			⑩	[テーマ] 動機づけ③ [内容] 葛藤(複数の動機の競合)と葛藤状態における反応について考える [授業外学習]過去の葛藤場面を考えてみる(1時間程度)
③	[テーマ] 感覚と知覚② [内容] 物理世界と知覚世界の違いを通して、私たちの知覚の特徴について考える [授業外学習]身の回りで経験する錯覚について考えてみる(1時間程度)			⑪	[テーマ] 人格① [内容] 個性とは何か、その人らしさとは何かについて考える [授業外学習]自分の性格的特徴は何かを考えてみる(1時間程度)
④	[テーマ] 感覚と知覚③ [内容] 文字や顔を例にして、いろいろな刺激をまとめるとしてとらえるという知覚の特徴について考える [授業外学習]「犬を見て、犬だとわかる」ことを考えてみる(1時間程度)			⑫	[テーマ] 人格② [内容] 人格はどのように形成されるのか(遺伝の要因と環境の要因)について考える [授業外学習]自分と両親兄弟の性格を比較してみる(1時間程度)
⑤	[テーマ] 学習と記憶① [内容] 学習とはどのような働きか、そしてそれが私たちの生活にどのように関わっているかを考える [授業外学習]出生後の行動の変化について考えてみる(1時間程度)			⑬	[テーマ] 人格③ [内容] 精神的な面での個人差を調べる方法(心理検査)について紹介する [授業外学習]精神的特徴の測定について考えてみる(1時間程度)
⑥	[テーマ] 学習と記憶② [内容] 代表的な学習－条件づけ、記銘学習、観察学習－について考える [授業外学習]条件づけの例を身の回りで探してみる(1時間程度)			⑭	[テーマ] 社会心理① [内容] 他の人についての印象はどのように形成されるかについて考える [授業外学習]周囲の人に対する自分の印象を整理してみる(1時間程度)
⑦	[テーマ] 学習と記憶③ [内容] 学習を支える記憶の仕組みとその働きについて考える [授業外学習]完全な記憶喪失の状態について想像してみる(1時間程度)			⑮	[テーマ] 社会心理② [内容] 私たちはどのような人を好きになり、どのような人を友達として選ぶのかについて考える [授業外学習]友人との出会いから現在までを考えてみる(1時間程度)
⑧	[テーマ] 動機づけ① [内容] 私たちが生命を維持するために必要な、行動の原因について考える [授業外学習]死なないために必要なことを考えてみる(1時間程度)			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
レポートを3回課し、その評価(評価割合30%×3)と授業態度(評価割合10%)によって成績を決定します。レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明をします。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えましょう。 授業中、授業に無関係のことをしてはいけません。(減点の対象) 授業中、授業の妨げになることはしてはいけません。(減点の対象)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	◎	◎	◎	90%	
演習・実技					
授業態度		◎		10%	
出席					
関連科目	なし				
教科書	使用しません			参考書	授業の中で指示します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	人の心と行動 Human Mind and Behavior(L.)			担当教員	平田 忠
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					
<p>私たちが毎日している行動にはいろいろなものがありますが、この授業では「衣」に関わる行動をとりあげます。私たちは日常いろいろなものを身につけて生活しています。いつ、どこで、どのようなものを身につけるかの選択と決定をわたしたちはどのように行っているのでしょうか。そこにはどのような意図や動機が関係しているのでしょうか。このような「衣」にかかわるさまざまなことについて考えてもらいます。</p>					
授業の一般目標					
<p>「衣」に関わる選択と決定、動機と意図について理解するとともに、「衣」を通して自分自身の精神的な特徴と行動の傾向、同時に自分の周囲にいる他の人たちの精神的な特徴と行動傾向について意識して考える態度を身につけることが目標になります。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	「衣」に関わる人の行動の法則性を理解する			
■	情意的領域	人の行動を客観的・分析的に考える態度を身につける			
■	技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。			
授業計画(全体)					
「衣」に関わるさまざまな話題(装い、化粧、流行、身体イメージなど)について解説をします。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 初めに [内容] 授業の内容と進め方についての説明、「衣」を考える視点について [授業外学習] 自分の「衣」をよく観察してみよう(1時間程度)			⑨	[テーマ] 流行② [内容] 私たちはなぜ流行を追うのかについて考える [授業外学習] 流行に対する自分の態度を振り返ってみる(1時間程度)
②	[テーマ] 着衣の動機 [内容] 人はなぜ服を着るのか、また人はいつ頃から服を着るようになったかについて考える [授業外学習] 服を着ることの意味について考えてみる(1時間程度)			⑩	[テーマ] 流行③ [内容] 流行における個人差、流行採用と人格との関係について考える [授業外学習] 自分の性格と流行との関係について考えてみる(1時間程度)
③	[テーマ] 装い① [内容] 装いが持つ情報伝達という機能について考える [授業外学習] 装いで自分が伝えたいことについて考えてみる(1時間程度)			⑪	テーマ] 化粧① [内容] 顔の働きと顔の管理について考える [授業外学習] 顔に注目することについて考えてみる(1時間程度)
④	[テーマ] 装い② [内容] 装いによって私たちの対人関係と対人行動はどのように変わるかについて考える [授業外学習] なぜ私たちは着飾るのかを考えてみる(1時間程度)			⑫	[テーマ] 化粧② [内容] 髪型を含む化粧の機能と精神的な効果について考える [授業外学習] 自分の性格と化粧・髪型との関係を考えてみる(1時間程度)
⑤	[テーマ] 「衣」の購買① [内容] 数え切れない選択肢の中から、私たちはどのようにして特定の商品を選ぶのか、その過程について考える [授業外学習] 自分の購入の決断過程を考えてみる(1時間程度)			⑬	[テーマ] 身体と被服① [内容] 三種類の身体(客観的な身体特徴、主観的イメージ、理想とするイメージ)の関係について考える [授業外学習] 自分の身体についての好き嫌いを考えてみる(1時間程度)
⑥	[テーマ] 「衣」の購買② [内容] 個人の購買に関する態度を合理性と情緒性という二つの面から考える [授業外学習] 商品のどのような特性を重視するかを考えてみる(1時間程度)			⑭	[テーマ] 身体と被服② [内容] 被服による身体イメージの操作について考える [授業外学習] 被服によるイメージ操作の工夫を考えてみる(1時間程度)
⑦	[テーマ] 「衣」の購買③ [内容] 購買に伴う危険性とブランドの影響について考える [授業外学習] 買った後の後悔経験を振り返ってみる(1時間程度)			⑮	[テーマ] 被服における逸脱 意図的に、標準的なもの、社会的に望ましい形とは異なる装いを選ぶことについて考える [授業外学習] 講義の内容を総合して自分の装いを考えてみる(1時間程度)
⑧	[テーマ] 流行① [内容] 流行とはどのような現象なのかについて考える [授業外学習] 今年流行したこと・ものを思い出してみる(1時間程度)			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
レポートを3回課し、その評価(評価割合30%×3)と授業態度(評価割合10%)によって成績を決定します。 レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明します。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えましょう。 ・授業中、授業に無関係のことをしてはいけません。(減点の対象) ・授業中、授業の妨げになることはしてはいけません。(減点の対象)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	◎	◎	◎	90%	
演習・実技					
授業態度		◎		10%	
出席					
関連科目	なし				
教科書	使用しません			参考書	授業の中で指示します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです				

(社会分野)

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	社会学概論 Introduction to Sociology (L.)				担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
<p>社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。</p>						
授業の一般目標						
<p>社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題をより鮮明に理解できるようになる。</p>						
授業の到達目標						
■	認知的領域	社会学的な諸概念を理解する。				
■	情意的領域	社会における「当たり前」を疑う態度を身につける。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
<p>毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会学的概念を解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学習]社会問題にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む(90分)</p>				⑨	<p>[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学習]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する(300分)</p>
②	<p>[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑩	<p>[テーマ] ジェンダーとスポーツ文化 [内容] ジェンダーとセクシュアリティ概念について解説し、スポーツ文化とのかかわりについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
③	<p>[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑪	<p>[テーマ] 家族と社会学 [内容] 近代家族の特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
④	<p>[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑫	<p>[テーマ] 学校と社会学 [内容] 学校という空間の持つ特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑤	<p>[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑬	<p>[テーマ] スポーツと社会学 [内容] スポーツ社会学の知見について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑥	<p>[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料(映画)を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑭	<p>[テーマ] メディアと社会学 [内容] メディアとコミュニケーションについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑦	<p>[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑮	<p>[テーマ] 現代と社会学 [内容] 現代社会(後期近代社会)がもつ問題性や特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑧	<p>[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の種類、構造について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑯	<p>[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学習]講義内容を復習し、期末レポートを作成する(600分)</p>
成績評価方法(方針)						
<p>中間試験(50%)＋期末レポート(50%)で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン(50点中30点)に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。</p>						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、本講義の成績は「不可」となる。 熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。 「分からない」ということは恥でも何でもなく、むしろよく分からないことを「分かたつた」ふりをするほうが恥ずかしいと思うように。そのため些細な質問でも大歓迎なので、オフィスアワーに気軽に質問に来るように。</p>
定期試験		○	○		50%	
授業内レポート						
授業外レポート		○	○	○	50%	
演習・実技						
授業態度					欠格条件	
出席					欠格条件	
関連科目	社会構造と人間関係、社会調査法 I					
教科書	特に指定しない				参考書	倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 奥村隆[編著]『社会学になにができるか』八千代出版、1997
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp					

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	社会構造と人間関係				担当教員	三谷高史
	Social Structure and Human Relationship (L.)					
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
<p>社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。後半は、ほぼ全ての人が経験する学校という社会的空間に焦点を当てる。</p>						
授業の一般目標						
<p>社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題をより鮮明に理解できるようになる。</p>						
授業の到達目標						
■	認知的領域	社会学的な諸概念を理解する				
■	情意的領域	社会における「当たり前」を疑う態度を身につける				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
<p>毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会的概念を解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学習]学校にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む(90分)</p>				⑨	<p>[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学習]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する(300分)</p>
②	<p>[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑩	<p>[テーマ] 学校の社会学① [内容] 学校の持つ集中性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
③	<p>[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑪	<p>[テーマ] 学校の社会学② [内容] 学校の持つ秩序性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
④	<p>[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑫	<p>[テーマ] 学校の社会学③ [内容] 学校の持つ文化性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑤	<p>[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑬	<p>[テーマ] 学校の社会学④ [内容] 教員の部活動負担問題について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑥	<p>[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料(映画)を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑭	<p>[テーマ] 学校の社会学⑤ [内容] 学校におけるリスクについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑦	<p>[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑮	<p>[テーマ] 学校の社会学⑥ [内容] 運動部活動における「体罰」、「事故」、それへの対策について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>
⑧	<p>[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の種類、構造について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする(90分)</p>				⑯	<p>[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学習]講義内容を復習し、期末レポートを作成する(600分)</p>
成績評価方法(方針)						
<p>中間試験(50%)＋期末レポート(50%)で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン(50点中30点)に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。</p>						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、本講義の成績は「不可」となる。 熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。 「分からない」ということは恥でも何でもなく、むしろよく分からないことを「分かった」ふりをするののほうが恥ずかしいと思うように。そのため些細な質問でも大歓迎なので、オフィスアワーに気軽に質問に来るように。</p>
定期試験		○	○		50%	
授業内レポート						
授業外レポート		○	○	○	50%	
演習・実技						
授業態度					欠格条件	
出席					欠格条件	
関連科目	社会学概論、社会調査法 I					
教科書	特に指定しない				参考書	倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 内田良『教育という病』光文社、2015
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp					

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	消費経済とスポーツ			担当教員	高成田 享、遠藤保雄	
	Economy of Consuming and Sport					
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数			2
授業の概要						
消費の視点からみた経済及びスポーツを学ぶ。						
授業の一般目標						
消費と経済及びスポーツを学ぶことで、体育系大学で学んだ人間が社会に参画する際に役立つ知識や考え方を身に付ける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	消費あるいは消費者とは何か、それがスポーツとどうかかわるかを理解する				
■	情意的領域	自分が消費する意味や楽しみをほかの人に伝える方法や工夫を学ぶ。				
■	技能表現的領域	作文及び自分の意見のプレゼンテーションする能力を高める。				
授業計画(全体)						
消費の視点から経済の歴史やスポーツの歴史を学び、現代社会における消費の意味を理解する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 授業の概要 [内容] 消費経済とは何かを学ぶ。 [授業外学習] 自分の生活のなかで、どんな分野に消費しているか調べる			⑨	[テーマ] クレジット社会 [内容] 消費の欲望を拡大させるための道具としてのクレジットの歴史と意味。 [授業外学習] クレジットで購入したことがあるか考える	
②	[テーマ] 消費の歴史 [内容] 生きるための消費から楽しむための消費が拡大する人類の歴史。 [授業外学習] 自分それぞれの消費についてその目的を考える			⑩	[テーマ] 貯蓄と投資 [内容] 貯蓄にはどんな種類があるのか、投資はどう違うのか。個人貯蓄や投資の経済的な意味を学ぶ [授業外学習] どんな貯蓄や投資があるか調べる	
③	[テーマ] 万国博からショッピングモールへ [内容] 消費の欲望をかきたてるための場の意味を、万国博、デパート、ショッピングモールなどの歴史をたどりながら考える。 [授業外学習] 万国博について調べる			⑪	[テーマ] 消費税 [内容] 消費税の仕組みと財政及び国際比較。 [授業外学習] 日本の財政を調べる	
④	[テーマ] 大衆消費社会とは [内容] 大量生産・大量消費社会の成立とその意味 [授業外学習] 自分の購入したものが大量製品されたものかどうか考える			⑫	[テーマ] 消費経済と国家経済 [内容] 消費のマクロ経済的な意味 [授業外学習] マクロ経済の意味を調べる	
⑤	[テーマ] 広告の功罪 [内容] 広告は消費に役立つが、不要なものを買ってしまうこともある。広告の功罪を考える。 [授業外学習] 自分の生活で広告で購入したものがあるかどうか考える			⑬	[テーマ] 消費社会を超えて [内容] 消費が環境に与える影響、物質的な幸せと精神的な幸せなど、消費社会がもたらした課題を考える。 [授業外学習]	
⑥	[テーマ] 記号としての消費 [内容] ステータスシンボルとしてのブランド商品の歴史と現在。 [授業外学習] ブランドとは何かを考える			⑭	[テーマ] まとめと小論文の書き方 [内容] これまでの授業のまとめと小論文の書き方。 [授業外学習]	
⑦	[テーマ] 消費するスポーツ(上) [内容] スポーツが消費社会に組み込まれる歴史をたどる。 [授業外学習] 自分の生活の中でスポーツに関係する消費がどれだけあるか考える			⑮	[テーマ] 小論文 [内容] これまでの授業を踏まえて小論文書く。 [授業外学習]	
⑧	[テーマ] 消費するスポーツ(下) [内容] スポーツが消費社会に組み込まれた現状を考察 [授業外学習] 同上			⑯	[テーマ] 予備 [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
出席状況と授業の終わりに書くレポート、最後の授業で書く小論文などで判定						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	私語厳禁。私語で退席を命じた学生には単位を与えません。
定期試験					60%	
授業内レポート	◎	◎	◎			
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度	○	○	○	○	10%	
出席	○	○	○	○	30%	
関連科目						
教科書				参考書		
連絡先						
高成田研究室(to-takanarita@sendai-u.ac.jp)						

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名		世界経済・日本経済とスポーツ World & Japanese Economy and Sports			担当教員	遠藤保雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
スポーツビジネスは年々拡大している。そのビジネスは世界経済・日本経済の動向と深く結びついている。世界や日本のスポーツ経済を概観しつつスポーツビジネスや経済が世界経済・日本経済とどう結びついているかを学び、これを通じ世界経済・日本経済の見方やその経済のシステム、経済理論などを学ぶ。						
授業の一般目標						
スポーツビジネス、スポーツ経済という場合に、先ず、ビジネスとは、経済とは何かを学び、スポーツが世界経済や日本経済とどう結びついているかを考察し、これを通じ、スポーツを先行する本学の学生に取り、世界経済、日本経済の味方について理解を深める。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツについては、これを行う上での基礎的な技術・ルールを学ぶだけでなく、競技として観客に楽しんでもらうビジネスとなっていること、そこから金銭のやり取りが行われ経済活動に発展していることの認識を深める。				
■	情意的領域	スポーツは、やるもの、見るものなど多様な形で国民の生活に結びついており、これにより国民生活を豊かにするという価値を持っていることに理解を深める。				
■	技能表現的領域	スポーツ経済を考える上での基本的な用語・理論について、基礎的な経済学的な基礎面についての理解を深める。				
授業計画(全体)						
本授業は、毎回、指定のテーマについて考察し、講義ノートを活用し理解を深めさせる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 国際経済・日本経済の現状とスポーツ [内容] 国際経済・日本経済の現状とそれの中におけるスポーツの位置づけを考察する。 [授業外学習] GDPに着目し国際経済・日本経済の規模を調べる(90分)			⑨	[テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟 [内容] 第二次大戦後の国際経済の発展と、するスポーツ、見せるスポーツ、スポーツ支援産業に着目しスポーツ経済の動向を考察する [授業外学習] 第二次大戦後の現代史を予習しておくこと(90分)	
②	[テーマ] 資本主義の成立と近代スポーツ [内容] 英国における産業革命とこれに続く欧米での工業化による資本主義の成立の下での近代スポーツの確立を概観し近代スポーツとは何かを考察する。 [授業外学習] 欧米で生まれた近代スポーツの種目を調べる(90分)			⑩	[テーマ] 日本での資本主義の成立・発展と近代スポーツの移入・定着・発展 [内容] 我が国資本主義の成立と近代スポーツの欧米から移入以降、戦後の経済復興、高度経済成長、安定経済成長を経た日本経済とスポーツの動向を概観する。 [授業外学習] 明治期から現代までの経済史を学習すること(90分)	
③	[テーマ] 資本主義経済の考察① [内容] 資本主義経済成立前の経済と比較しつつ資本主義経済の特徴を概説し、その経済を学ぶ上でのミクロ経済学とマクロ経済学の2つについて概説する。 [授業外学習] 資本主義経済とは何かをあらかじめ調べておくこと(90分)			⑪	[テーマ] 日本経済の発展とスポーツ [内容] 90年代初めの日本経済のバブル崩壊とその後の失われた20年を経てアベノミクスの登場までの経済動向とこれに伴い変化するスポーツ経済の動向を概観する。 [授業外学習] 失われた20年とは何を意味するか調べておくこと(90分)	
④	[テーマ] 資本主義経済の考察② [内容] ミクロ経済学①モノ・サービスの生産・交換・消費、それに伴う需要・供給関係の形成と価格・数量の決定、企業の生産・コスト・利潤最大化の追求と生産投資行動 [授業外学習] 生活の中でモノ・サービス、その取引につき観察しておくこと(90分)			⑫	[テーマ] 直面する日本経済の課題とスポーツの果たす役割① [内容] 経済のソフト化とスポーツの雇用効果、情報化社会におけるスポーツ経済の効果、経済のグローバル化の下でのスポーツの発展について考察する。 [授業外学習] 経済のソフト化、情報化、グローバル化を調べておくこと(90分)	
⑤	[テーマ] 資本主義経済の考察③ [内容] ミクロ経済学②市場機能と価格メカニズム、資源配分の効率性、所得分配、市場の失敗、独占と寡占 [授業外学習] 需要曲線と供給曲線はどのように決まるか予習しておくこと(90分)			⑬	[テーマ] 直面する日本経済の課題とスポーツの果たす役割② [内容] 少子高齢化社会におけるスポーツの役割、地方活性化に果たすスポーツの経済効果、食品経済とスポーツにつき考察する [授業外学習] 高齢化、地方経済の低迷、食と健康に関し調べておくこと(90分)	
⑥	[テーマ] 資本主義経済の考察④ [内容] マクロ経済学① GDPとその3面等価、経済のフローとストック、有効需要、財市場と貨幣市場の関係、マクロ経済を構成する家計・企業・政府の行動、 [授業外学習] GDPを構成する要素を調べておくこと(90分)			⑭	[テーマ] 世界経済の発展とオリンピック① [内容] 近代オリンピック誕生から第二次大戦を経て、第二次大戦後の世界経済の発展・変化を概観し、合わせて平和の祭典オリンピックの各時代における経済的意義を考察する [授業外学習] 近代オリンピックの歴史を予習しておくこと(90分)	
⑦	[テーマ] 資本主義経済の考察⑤ [内容] マクロ経済学②経済成長と景気変動、完全雇用と失業、インフレとデフレ、財政政策、金融政策、国際経済(貿易、比較優位、国際収支と円高・円安) [授業外学習] マクロ経済学の構成要素を予習しておくこと(90分)			⑮	[テーマ] 2020年東京オリンピック・パラリンピックの政治経済学 [内容] 2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催を巡る政治経済学について論じる。 [授業外学習] 東京オリンピック・パラリンピックの招致の理由を調べておくこと(90分)	
⑧	[テーマ] 産業革命以降の国際経済の発展とスポーツ [内容] 英国での産業革命以降、第二次大戦に至る国際経済の動向と近代スポーツの発展・変化を考察する [授業外学習] 英国の産業革命以降の近代史を予習しておくこと(90分)			⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] クラスでの講義ノートをベースに出題する。 [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
試験結果に基づき評価する。暗記ではなく、思考力を重視した評価を行う。特に、①起承転結の論理構造、②実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験の原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	学則通り全授業の三分の二以上の出席が必要
定期試験		◎	○	○	90%	
授業内レポート		◎	○	○	10%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度		◎	○	○		
出席					欠格条件	
関連科目						
教科書				参考書		
				スポーツの経済学(マイケル・A・リース) スポーツ産業論(原田宗彦)		
連絡先						
遠藤 ys-endo@sendai-u.ac.jp						

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	法学 Jurisprudence			担当教員	加藤英俊
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
テキストを用いて、特に、民法総則、親族・相続、不法行為法等を、そして、行政に関する基本的な事項を扱う。日本国憲法は別途科目が設けられているので、この科目では扱わない。					
授業の一般目標					
日常生活での行為がもつ法的意味を理解し、社会的事象を法学的な観点から考えることができるようになる。そして、法学の自己学習ができるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	基本的な法律用語の意味と使用法を理解し、適切に応用できるようになる。			
■	情意的領域	法的観点から社会問題を考え、意見を述べるができるようになる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
シラバスで挙げた項目についてテキストの内容を理解することを中心に講義を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業の進め方、成績の評価方法について説明する。 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑨	[テーマ] 使用者責任と国家賠償責任 [内容] 使用者責任と国家賠償責任の異同 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
②	[テーマ] 親族関係と法 [内容] 親等図、戸籍の今昔から見る親族関係 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑩	[テーマ] 土地工作物責任、営造物責任、動物占有者責任 [内容] 各事項の概説と、特に、土地工作物責任と映像物責任の異同 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
③	[テーマ] 婚姻と離婚(1) [内容] 婚姻の成立、無効・取消、 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑪	[テーマ] 契約を結ぶことができるのは [内容] 権利能力、意思能力、行為能力の基本的な事項・ [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
④	[テーマ] 婚姻と離婚(2) [内容] 夫婦の権利義務、離婚、財産分与等 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑫	[テーマ] 制限行為能力者 [内容] 未成年者、成年後見制度 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘、または、テストの予告
⑤	[テーマ] 親子関係、私的扶養 [内容] 親子関係で現れる法的諸事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑬	[テーマ] 予備、または、中間審査 [内容] 進捗が遅れているときは講義を行う。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 遺言と法定相続 [内容] 遺言と相続の基本的な事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑭	[テーマ] お役所とお役所の仕事 [内容] 行政主体と行政庁、行政処分と行政指導の基本的な事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
⑦	[テーマ] 損害の賠償 [内容] 不法行為と債務不履行による損害の賠償請求の基本事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑮	[テーマ] お役所の処分を争う [内容] 行政救済の基本事項 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 不法行為 [内容] 不法行為概念の概説と事例、責任能力 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
成績の評価は、基本的に、筆記試験で行う。中間審査を行った場合には評価の際に考慮する。欠席日数については学生便覧「試験細則」による。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			100%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	谷口・松原編著、基礎からわかる法学(成文堂)			参考書	
連絡先	非常勤なので教育企画室に問い合わせをすること。				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	歴史学入門			担当教員	伊達 宗弘
	Introduction to History				
開講内容	学年・学期	1・2・3前期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
それぞれの時代に大きな役割を果たした先人の「生き様」を紹介し、困難や危機に直面した時のヒントになる講座とする。聖徳太子、中大兄皇子、菅原道真、平清盛、足利尊氏、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、伊達政宗、宮本武蔵、吉田松陰、大久保利通、板垣退助らの果たした歴史的な役割を分かりやすく解説する。					
授業の一般目標					
国際化や情報化が進めば進むほど次代を担う人たちにとって最も大切なのは、日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識することである。それがあって初めて堂々と生きることが出来、また世界に伍していくことが出来るのではないだろうか。日本人として知っておきたい教養としての歴史と文化を、先人の「生き様」から学び、力強く生きていく上においてのヒントになる情報を提供する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	日本の素晴らしい歴史や文化を、ごく自然に語る事が出来るようになる。			
■	情意的領域	身の周りのものを優しい気持ちで見ることが出来、いつも高い志を持って生きることが実践出来るようになる。			
■	技能表現的領域	言葉づかい、身のこなし方にも教養が感じられる人材になることを目指す。			
授業計画(全体)					
歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得た興味も持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料としては生涯手元において役立つようなオリジナルな資料集を作成し配布する。講座はその都度完結した物語風に構成する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]私の履歴書 [内容] 大学受験に失敗し父が交通事故に遭遇するなど、失敗と挫折の連続の中で自分の目標を実現するために歩んだ半生を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説。			⑨	[テーマ] 豊臣秀吉の天下統一 [内容] 一介の農民から天下統一をした秀吉の人心収攬術と、人々に夢を与えた秀吉のエピソードを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
②	[テーマ]旧石器時代から飛鳥時代 [内容] 旧石器時代から縄文・弥生・古墳・飛鳥時代を紹介し、特に日本の国のかたちを整えた聖徳太子の果たした歴史的な役割を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説			⑩	[テーマ]道を起こし教を布く・徳川家康 [内容] 今の日本のかたちを整えた江戸時代の礎を築いた徳川家康、隣国の強敵武田信玄を生涯私淑した覇者の哲学を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
③	[テーマ] 大化の改新と大宝律令の制定 [内容] 聖徳太子の意思を継承した中大兄皇子らによって行われた大化の改新や大宝律令制定など日本の国のかたちが整っていく過程を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説			⑪	[テーマ] 伊達政宗と仙台藩の国づくり [内容] 秀吉からは領地を取り上げられ、家康からは約束を反故にされても挫けず、大穀倉地帯の礎を築いた政宗の夢と国づくりを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
④	[テーマ] 奈良の都と京の都 [内容] 天平文化を花開かせた奈良時代、遣唐使が廃止されたことによって創り出された国風文化、武家の勃興してきた平安時代を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説			⑫	[テーマ]『五輪書』に見る宮本武蔵の生き様 [内容] 宮本武蔵の『五輪書』や『独行吟』を紹介し、社会人として生きていくうえにおいてのヒントを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
⑤	[テーマ] 平安時代の光と影 [内容] 武士が勃興し平清盛が初めて武家政権を打ち立て、貿易によって巨利を得ようとした清盛の壮大な構想と平家没落までを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説			⑬	多彩な人材を育てた吉田松陰 [内容] 新しい時代を築く有為な人材を短期間のうちに多数育てた吉田松陰の生き様について紹介し、生きていく上でのヒントを提供。 [授業外学習] 四字熟語の解説
⑥	[テーマ]鎌倉幕府の成立と南北朝の騒乱 [内容] 鎌倉幕府の成立から滅亡、建武の中興、武士の信望に応じて立ち上がった足利尊氏、乱世におけるリーダーの条件を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説			⑭	[テーマ] 日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 国づくりのため西郷隆盛と決別し、日本の近代化のため危機を顧みず奔走した大久保利通の政治家としての見識を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
⑦	[テーマ] 応仁の乱と戦国乱世 [内容] 100年にわたる戦国乱世を生きた武将の名言を紹介し、その中で地を拓き水を治めるのに腐心した武田信玄の国づくりを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説			⑮	[テーマ] 自由民権運動の旗手・板垣退助 国民中心の国家を創るため全国各地で自由民権運動を展開し、国会開設、政党政治実現に奔走した板垣退助の治績を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説
⑧	[テーマ] 織田信長、天下統一への道 [内容] 卓抜な発想と精悍な行動力で、古い因習を打破し新しい時代を創り上げようと天下統一を目指した織田信長の生き様を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説			⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
毎回提出するレポート、出席日数、テスト等から総合的に判断する。出席日数2/3以下は対象外。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					40%
授業内レポート		○	○	○	40%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席			○		20%
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
1 生きていくうえでの必要な常識や、危機に直面した時の対処などについて役立つ情報を提供するので可能な限り受講すること。 2 就職活動を念頭に役立つ具体的な情報も提供するのでしっかりと受講し、講座の内容を簡潔に取りまとめるレポートを毎回提出してもらうので、この機会を最大限活用し文章を書く実践の場にして欲しい。					
関連科目					
教科書	手作り教科書(34ページ)と四字熟語集(20ページ)を配布	参考書	必要に応じて授業で指示する。		
連絡先	図書館専用電話 0224-55-2052				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	歴史と人間			担当教員	伊達 宗弘
	Individual Elements in History				
開講内容	学年・学期	1・2・3後期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
通史としての日本史と、時代を大きくかえて行くために大きな役割を果たした先人の生き様、また名言や四字熟語等を通して、これからの激動の時代、先行き不透明な時代を逞しく生きていく上でのヒントになる情報を提供する。					
授業の一般目標					
日本は世界に冠たる歴史や文化を築いてきた国である。次代を担う人たちにとって一番大切なのは、そのような日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識することである。これがあってはじめて堂々と生きることが出来、また世界に伍していくことができるのではないだろうか。社会に出て実際に役立つ実学としての歴史を学ぶ。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	日本の歴史や文化の素晴らしさを、ごく自然に語れるようにする。			
■	情意的領域	身の周りのものを優しい気持ちで見ることが出来、いつも高い目標をもって生きることを実践できる人材となることを目指す。			
■	技能表現的領域	言葉の使い方、身のこなし方にも教養が感じられるような人材になることを目指す。			
授業計画(全体)					
歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得、また興味が持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料としては生涯手元に置いて役立つようなオリジナルな資料集を作成し配布する。講座はその都度完結された物語風に構成する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 私の履歴書 [内容] 自分自身の失敗と挫折の半生を振り返り、生きて行くうえで何が大切であるかを考えるヒントを提供。 [授業外学習]四字熟語とことわざの解説			⑨	[テーマ] 豊臣秀吉、賤ヶ岳合戦の秘策 [内容] 短期間で天下統一を果たした秀吉の智謀と策略、秀吉の人心収攬術などを通して、今に通じる人心掌握術の妙に迫る。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
②	[テーマ] 聖徳太子、理想国家実現の夢 [内容] 天皇を中心とした中央集権国家建設づくりに腐心した、聖徳太子の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑩	[テーマ] 失敗を糧とした覇者の哲学 [内容] 我慢に我慢を重ね天下人となった徳川家康、覇者の哲学を通して今を生きる人にとって何が大切かを考える。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
③	聖徳太子の意思を敬称、大化の改新 [内容] 複雑な権力闘争の中、聖徳太子の意思を継承した天智天皇らが国のかたちを整えていく過程を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑪	[テーマ] 伊達政宗の国づくり 年齢差を乗り越え、秀吉や家康と堂々と渡り合い、領地没収・約束反故の苦境の中で大靱倉地帯の礎を築いた政宗の国づくりを紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
④	[テーマ] 天平文化、国風文化花開く [内容] 聖武天皇によって花開いた天平文化、菅原道真の遣唐使廃止建言によって花開いた国風文化を紹介する。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑫	[テーマ] 兵法の道は人の道 [内容] 剣一筋に生きてきた武蔵が、剣の道を通して会得した人の道の哲学書『五輪書』等を通して生きていくうえで何が大切かを学ぶ。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑤	[テーマ] 初めての武家政権を築いた平清盛 [内容] 貴族の衰退、武士の勃興の中で貿易立国で豊かな国づくりをしようと壮大な夢の実現に腐心した平清盛と、その生きた時代を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑬	[テーマ] 志のある者よ、立ち上がれー吉田松陰ー [内容] 幕末から明治にかけて新しい時代を築く多彩な人材を育てた吉田松陰を紹介し、自ら考え実践する大切さを学ぶ。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑥	[テーマ] 乱世を制するリーダーの条件 [内容] 尊敬する後醍醐天皇と決別し、武士中心の幕府を創るため腐心した足利尊氏の苦悩の決断、歴史に果たした役割を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑭	[テーマ] 日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 盟友西郷隆盛と決別し郷里鹿児島の人々の怨嗟にもめげず、命がけて新しい国づくりに命を捧げた大久保利通の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑦	[テーマ] 水を治め地を開く [内容] 戦国時代末期、人の力を信じ、金山開発、河川改修などで甲斐の国を強国に変えていった武田信玄の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑮	[テーマ] 板垣死すとも、自由は死せず [内容] 身の危険を顧みず自由民権運動の旗手として、命がけて全国遊説し議会開設の原動力となった板垣退助の考え方を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑧	[テーマ] 肉を切らせ骨を絶つ [内容] 卓抜な人物鑑定能力と斬新な発想で新しい時代を築くため力を注いだ織田信長の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
受講生が毎回提出するレポートと出席日数、テスト結果から総合的に判断する。出席回数は2/3以下は対象外とする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					40%
授業内レポート		○	○	○	40%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席			○		20%
1 生きていく上での参考・ヒントになる情報を提供するので可能な限り講義を受講すること。 2 毎回レポートを提出させるので、講義内容を簡潔にまとめる訓練の場にして欲しい。					
関連科目					
教科書	手作り教科書(34ページ)と四字熟語集(20ページ)を配布			参考書	必要に応じて授業で指示する。
連絡先	図書館専用電話0224-55-2052				

(自然分野)

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名		生物科学 Biological Science (L.)		担当教員	宋戸 勇
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
医学や体育学の基礎領域のひとつとして、生物科学の知識を修得することは必須条件である。生物学から生命科学へと学問領域が展開されていく中で、体育科学や健康科学の科学的な内容把握への一助となるよう細胞学や生理学などの基礎知識を学ぶ。					
授業の一般目標					
高等学校では選択科目として位置づけられていることから、履修してこない学生も多く、専門領域への取組みが円滑に出来るようにしたい。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	細胞の構造や機能、細胞内小器官の連携形態と生理学や栄養学の基本となる呼吸、タンパク質の構造・機能について理解する。			
■	情意的領域	構造や機能の連携などについてじっくり理解する。			
■	技能表現的領域	暗記の学問ではなく、しっかり理解し、表現できる習慣を養う。			
授業計画(全体)					
選択科目ではあるが、最大80人規模のクラスとなるため、パワーポイントやビデオなどの映像も活用しながら、生物の体内で起こる自然現象をしっかりとらえ、理解できるようにする。最後は論述試験を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 生物学から生物科学までの成り立ちに関する歴史的展開 [授業外学習] 配布資料と内容の照合確認		⑨	[テーマ] タンパク質の分解と酵素の働き [内容] 生体内でのタンパク質分解過程とそれに関わる酵素について展開する。 [授業外学習] 総合理解	
②	[テーマ] 生命の起源と歴史的研究 [内容] 地球の誕生と地球型生命の起源について展開する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料からの総合理解		⑩	[テーマ] エネルギー産生機構とATPの役割 [内容] 呼吸とATPの関わりについて展開する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料の照合と総合理解	
③	[テーマ] 原核細胞と真核細胞 [内容] 細胞内に存在する小器官の形態・機能について展開する。 [授業外学習] パワーポイントによる映像と資料からの総合理解		⑪	[テーマ] 呼吸とエネルギー獲得 [内容] 栄養素の分解とエネルギー産生機構について理解する。 [授業外学習] 配布資料の理解	
④	[テーマ] 細胞とその内部構造 [内容] 真核細胞内の小器官の構造と働きについて展開する [授業外学習] 映像内容と配布資料の確認		⑫	[テーマ] 生体における神経伝達機構 [内容] 神経細胞(ニューロン)と神経伝達機構の仕組みについて展開する [授業外学習] 映像内容の理解と配布資料の内容把握	
⑤	[テーマ] 細胞内小器官の生理的機能とそれらの連携 [内容] タンパク質合成のからくり、分泌物生産の過程と小器官の連携について展開する。 [授業外学習] 配布資料の総合理解		⑬	[テーマ] ヒトの発生 [内容] ヒトの発生過程と生理機構について展開する。 [授業外学習] 映像内容の理解	
⑥	[テーマ] 遺伝子とその働き [内容] 遺伝子の構造と遺伝子本体の核酸について紹介する。 [授業外学習] 配布資料と映像の照合と総合理解		⑭	[テーマ] ヒトの酵素変異と代謝異常 [内容] 酵素の構造変異とそれに伴う生体異常と代謝異常について展開する。 [授業外学習] 配布資料の理解	
⑦	[テーマ] 遺伝子とタンパク質(1) [内容] DNA・RNAとタンパク質合成のからくりについて展開する。 [授業外学習] 映像内容と配布資料の照合と総合理解		⑮	[テーマ] ヒトの染色体異常 [内容] 染色体が起こす遺伝的疾患、突然変異による異状疾患について展開する。 [授業外学習] 配布資料の理解	
⑧	[テーマ] 遺伝子とタンパク質(2) [内容] タンパク質合成のからくりとそれに関与する遺伝子の働きについて展開する。 [授業外学習] 総合理解		⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)					
定期試験の評価を50%、出席は30%、授業内レポートを15%とし、授業態度は5%で評価したい。しっかり出席し、レポートも確実に提出すること。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	◎	◎	50%
授業内レポート		○	○	○	15%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度				△	5%
出席		○	○	○	30%
関連科目					
教科書	特になし。配布資料提供。			参考書	生物学、生物科学、といったタイトルの教科書は参考になる。
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行うこと。				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	エコロジー概論			担当教員	宍戸 勇
	Guidance of Ecology(L.)				
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
<p>自然の中で起こる諸々の現象に対して、どのような理解力が必要となるであろうか。例えば生物個体と環境との関係や、群れを形成したときの環境との関係、生物相互の関係などを理解することにより、生態学的な考え方、研究方法を身につけていく。特に、体育系大学生は自然と触れ合う機会が多いので、最近頻出する環境破壊などの問題や、環境利用に係る分析力を醸成する。</p>					
授業の一般目標					
この講義を受けることにより、生態学的思考方法が身につく。幅の広い学問であるので自然に対する分析力が養われる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	Ecologicalな研究方法とはどんなものか。個々の生物か、群れを成す生物か、それぞれに環境とのかかわりや生物相互の関係を理解する。			
■	情意的領域	映像による理解を深める。			
■	技能表現的領域	映像を利用しながら自然を理解し、幅広い見方、解釈方法を身につけ、分析できる能力を養う。			
授業計画(全体)					
<p>選択科目であるが、アウトドアでの活動の機会が多い学生諸君に、自然界で起こる現象や生物同士の相互関係などを映像を通じて理解し、生態学的な考え方を身につけたい。特に、講義内容として扱う観察内容の違いや研究対象の違いを理解しながら、多面的に適切な分析ができるようにしたい。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] ガイダンス [内容] エコロジーとはどんな学問か。体育大学学生にとってなぜ必要か。 [授業外学習] 配布資料により内容の確認をする。</p>			⑨	<p>[テーマ] 個体群生態学という研究領域について(2) [内容] 個体群としての環境との関わりについて分析し、理解する。 [授業外学習] 映像内容と配布資料の照合と総理解。</p>
②	<p>[テーマ] 環境要因と生物の関係 [内容] 無機的環境と生物の関係を理解する。 [授業外学習] パワーポイントと資料の照合</p>			⑩	<p>[テーマ] 群集生態学という研究領域について(1) [内容] 同種個体群や異種個体群が地域で群れるときの環境との関わりについて理解する。 [授業外学習] 前回の資料に基づき、個体や個体群との比較</p>
③	<p>[テーマ] 有機的環境とは何か。 [内容] 生物相互の関係について理解する。 [授業外学習] パワーポイント・ビデオからテーマとの関係を把握。</p>			⑪	<p>[テーマ] 群集生態学という研究領域について(2) [内容] 生物群集における種間関係、特に食物連鎖関係について理解する。 [授業外学習] パワーポイントやビデオ映像と照合する。</p>
④	<p>[テーマ] 生物の世界における制限要因 [内容] 生物の生活に影響する環境とその反応 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料との照合</p>			⑫	<p>[テーマ] 群集生態学という研究領域について(3) [内容] 生物群集における種間関係、特に共生関係について理解する。 [授業外学習] 個体や個体群における環境との関係を比較する。</p>
⑤	<p>[テーマ] 生理的最適域と生態的最適域 [内容] 制限要因と生物の条件選択能力について理解する [授業外学習] パワーポイントと配布資料の確認作業。</p>			⑬	<p>[テーマ] 群集生態学という研究領域について(4) [内容] 生態系における生物群集の働きと作用・反作用・相互作用の理解をする。 [授業外学習] 配布資料の内容理解。</p>
⑥	<p>[テーマ] 個生態学という研究領域について [内容] ビデオ映像から生物個体の環境に対する反応を理解する。 [授業外学習] 映像と配布資料との照合と総理解。</p>			⑭	<p>[テーマ] 栄養段階とエネルギーの流れ 生態系の中での生態的地位とエネルギーの流れについて理解する。 [授業外学習] 配布資料の理解</p>
⑦	<p>[テーマ] 適応現象とは [内容] 環境に対する個々の生物の反応と適応能力について理解する。 [授業外学習] パワーポイントと映像内容からの総理解。</p>			⑮	<p>[テーマ] 生態系と人間について [内容] 生物群集の構造変化と人間との関わり、環境破壊、環境保全と人間の関わりについて理解する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料との総理解。</p>
⑧	<p>[テーマ] 個体群生態学という研究領域について(1) [内容] 個体の集まりと環境への対応について理解する。 [授業外学習] 個体との比較を前回配布資料等から比較する。</p>			⑯	<p>[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]</p>
成績評価方法(方針)					
定期試験内容45%、出席30%、授業態度10%、授業内レポート15%として評価する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎	◎	◎	45%	出席は30%、授業態度10%、提出物15%とし、定期試験は45%合わせて100%としている。ポイントをしっかり理解し、真面目に出席していれば合格のラインに届くことになる。しっかり問題点を理解すれば合格するであろう。
授業内レポート	○	○	○	15%	
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	△		△	10%	
出席	○	○	○	30%	
関連科目					
教科書	特になし。配布資料とパワーポイントをしっかり理解すること。			参考書	高等学校時代の教科書は参考になる。
連絡先	非常勤なので教育企画室に問い合わせをすること。				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	教養数学			担当教員	大内悦夫	
	Basic Mathematics					
開講内容	学年・学期	1・2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
算数・中学数学の基礎・応用事項及び高校の数学の既習事項の確認・演習を行う。また卒論等に活用できる統計学の基礎を学習する。						
授業の一般目標						
問題の解法をとおして、数学的な考え方を学び、また解法を発表することにより自分の考えをしっかりとしたものにする。小学校、中学校の学習支援をする学生の育成、また、卒論等に活用できる統計学の基礎を習得する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	特徴的な数学的な考え方を体得する。				
■	情意的領域	他の人の意見を自分のものと対比しながら聞き、自分の考えをまとめる。				
■	技能表現的領域	自分の考えが発表できる。				
授業計画(全体)						
講義及び演習形式で様々な問題の解法を研究する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方、成績評価の方法等の説明 [授業外学習]			⑨	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 整式・因数分解 [授業外学習]	
②	[テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 整数の計算ができる。分数、小数の計算で、おちいりやすい間違いを研究する [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑩	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式・関数 [授業外学習] 本日の講義内容の復習	
③	[テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 図形・割合 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑪	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 順列 [授業外学習] 本日の講義内容の復習	
④	[テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 文章題 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑫	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 組み合わせ [授業外学習] 本日の講義内容の復習	
⑤	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 正負の数、文字式 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑬	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 正規分布・偏差値 [授業外学習] 本日の講義内容の復習	
⑥	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑭	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 相関係数 [授業外学習] 本日の講義内容の復習	
⑦	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 関数 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑮	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 検定 [授業外学習] 本日の講義内容の復習	
⑧	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 図形 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 既習内容の確認 [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
講義時数の2/3以上の出席を要する。下記の割合で評価をする。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	柔軟な思考ができるように努力する。出席については規定通りとする。
定期試験		◎			60%	
授業内レポート		○			10%	
授業外レポート		△			5%	
演習・実技		○			20%	
授業態度				△	5%	
出席					欠格事項	
関連科目	特になし					
教科書	なし			参考書	なし	
連絡先	大内研究室(A303)					

(教養演習)

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	体育系大学の基礎教養			担当教員	全専任教員
	Liberal Arts for Sport-oriented Students				
開講内容	学年・学期	1年・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
体育系大学とは何を学ぶ大学かについて、仙台大学の場合を取り上げ、仙台大学の「Admission」、「Curriculum」、「Diploma」の3つの方針を踏まえ、教育課程編成の考え方、教育内容、保健体育教員免許およびその他の取得資格と社会的実践との関係を俯瞰しながら、講義する。					
授業の一般目標					
体育系大学としての仙台大学の教育分野・内容、所属する学科領域の位置付け等を俯瞰することにより、その後の各専門課程における履修科目の設置目的・相互関係等が理解できるようになるため、個々の科目の学習が全体―他の科目―との関わりの中で行えるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	所属する学科のみならず、他学科の専門領域に関する知識をも習得する。			
■	情意的領域	所属する学科における専門領域の学習に対する意欲を高める。			
■	技能表現的領域	卒業後、所属する学科・コースで学んだ専門知識をどのように社会に還元するかを学ぶ。			
授業計画(全体)					
全専任教員が本授業の趣旨について共通理解と認識を持ち、各学科・コースの責任者によって作成された教材を用いて、「授業の概要」に掲げた目的に沿って各回の授業を行う。各回の担当者は、その回の授業内容に適した教員が行う(そのため、回毎に担当教員が変わることになる)。					
授業テーマとその内容					
* 第1回 オリエンテーション、カリキュラムの体系:本科目設定の狙い、授業の展開、仙台大学のカリキュラムの理念・特徴等について説明する。					
* 第2～4回 「学士力」養成と本学カリキュラムの関連について説明する。各回の内容は以下のとおり。					
第2回 学士力(1):導入演習、情報処理、スポーツ心理学、スポーツ社会学					
第3回 学士力(2):学習基礎教養演習、運動生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ指導の基礎、トレーニングの基礎					
第4回 学士力(3):英語、基盤科目の活かした事例					
* 第5回 教員養成					
* 第6～13回 各学科・コースについて説明する。各回の内容は以下のとおり。					
第6回 コーチング・コース					
第7回 トレーナー・コース					
第8回 マネジメント・コース					
第9回 健康福祉学科					
第10回 運動栄養学科					
第11回 スポーツ情報マスメディア学科					
第12回 現代武道学科					
第13回 子ども運動教育学科					
* 第14回 英語の必要性					
* 第15回 レポート作成・総評					
成績評価方法(方針)					
授業態度(70%)、およびレポート(30%)で評価する。レポートのフィードバックを希望する学生は、各クラス担任に相談すること。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	○	○	◎		30%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	◎	○	○		70%
出席					欠格条件
* 2/3以上の出席が必要(欠席した場合は必ず「欠席届」を出すこと)。 * 学部・学科・コース等の教育方針・内容を学ぶ貴重な授業であるので、積極的に授業に参加することを望む。					
関連科目	導入演習、学習基礎演習、仙台大学の専門基礎演習、全学教養演習、キャリアプランニングⅡ、各種専門科目、卒業論文				
教科書	とくに指定しない			参考書	必要に応じて指示する
連絡先	クラス担任、各授業担当者				

《人生設計科目》

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	キャリアプランニング I Career Planning I (L.)			担当教員	クラス担任教員、キャリアプランニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					
この授業では、学生生活(授業、日常、部活その他)での目的意識(なぜ、今ここにいて、これを行っているのか)を吟味することを通じ、大学生生活の充実を図ります。また、1年生からの人生設計(キャリアプランニング)の意識化を行います。					
授業の一般目標					
ライフステージの一段階として大学生生活を考え、学生生活の目標を自分なりにさだめることができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	改めて入学時の目標や夢を再確認する。今後の大学生生活と進路とを結びつけて考えられる。希望の職業以外の職業にもある程度の知識を持つ。			
■	情意的領域	職業や進路を話しあうことができる仲間を持つ。			
■	技能表現的領域	コース選択や科目履修を主体的に計画できる。			
授業計画(全体)					
実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態をとります。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(全クラス合同) [内容] キャリア・プランニングの考え方について説明し、本授業の流れについて説明します。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しを考える。(90分)			⑨	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格2(クラス単位) [内容] グループごとに調べた職業について、クラス内で発表します。 [授業外学習] 発表準備。(90分)
②	[テーマ] 講話①(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学習] 普段の生活態度を問い直す。(90分)			⑩	[テーマ] 他者からみた自分・自分からみた他者(クラス単位) [内容] 仲間からどのように見られているかを互いに検討することを通じ、人間関係における自分のポジションや役割を考えます。 [授業外学習] 他者にどう接するべきかを考える。(90分)
③	[テーマ] 講話②(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学習] 普段の生活態度を問い直してみよう。			⑪	[テーマ] 社会が求める「スキル」「能力」とは(クラス単位) [内容] 行政や産業界から求められる様々な能力のうち、「社会人基礎力」をとりあげ、自己評価を行います。 [授業外学習] 自分の「強み」「弱み」の活かし方を考える。(90分)
④	[テーマ] 導入演習、夏休みの反省、後期の目標(クラス単位) [内容] 本学進学当時の目的について改めて思い返し、夏休みの反省も踏まえ、後期の大学生生活の目標を考えます。 [授業外学習] 進学当時からのことを改めて振り返る。(90分)			⑫	[テーマ] 「夢」を描こう(クラス単位) [内容] 10年後の自分を想像したり、10年前の夢を思い出したりしながら、自分の夢について語りあってみよう。 [授業外学習] 改めて自分の将来の姿を考える。(90分)
⑤	[テーマ] 「はたらく」とはどういうことか(クラス単位) [内容] 「はたらく」ということを深く考えると難しい面があります。改めて自分なりに考えてみます。 [授業外学習] はたらく意味を自分なりに考える(90分)			⑬	[テーマ] 来年度の目標を書こう(クラス単位) [内容] 2年生を見据えて、来年どんなことに挑戦したいか、またそのためにどのような取り組みが必要かを検討してみよう。 [授業外学習] 改めて自分の将来の姿を考える。(90分)
⑥	[テーマ] 教師になるには?(クラス単位) [内容] 入学生の過半が希望する教師という職業について、その現状と超えるべきハードル、日程について確認します。 [授業外学習] 教師になるまでの道のりについて調べる(90分)			⑭	[テーマ] 就職内定の4年生・卒業生の話を聞こう(全クラス合同) [内容] 就職の内定を得た4年生や卒業生をお呼びし、進路決定方法、準備方法、現段階でやるべきことなどの講話をしてもらいます。 [授業外学習] 自分なりの就職に向けたスケジュールを考える。(90分)
⑦	[テーマ] 体育・スポーツ系の仕事とは?(クラス単位) [内容] 教師以外の体育・スポーツに関わる仕事、業界と関連資格などを調べ、自分の志望を再度確認します。 [授業外学習] 興味のある職業について考える。(90分)			⑮	[テーマ] 自分の人がらと適職について考えよう(全クラス合同) [内容] 職業興味検査を行い、自己採点と自己分析をしよう。 [授業外学習] 職業興味検査の結果をよく検討する。(90分)
⑧	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格1(クラス単位) [内容] スポーツ系以外で世の中にはどんな職業があるのか、またそれらに関連する資格、知識、技能とは? グループごとに調べます。 [授業外学習] グループ学習。(90分)			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の材料は出席状況および授業参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		◎	◎	◎	10%
授業外レポート		◎	◎	◎	20%
演習・実技		◎	◎	◎	20%
授業態度		◎	◎	◎	50%
出席					
関連科目	キャリアプランニングⅡ・キャリアプランニングⅢ				
教科書	「キャリアプランニングⅠ演習資料」 (オリエンテーション時に配布します)			参考書	
連絡先	クラス担任教員				

2. 專門基礎科目

《講義》

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名		スポーツ社会学 Sociology of Sport (L)			担当教員	荒牧 亜衣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						
スポーツと社会との関係から、近代スポーツの特徴および現代スポーツの特徴やその意義、役割を概説する。また望ましいスポーツ振興のあり方や方法について具体的に解説する。						
授業の一般目標						
スポーツを社会現象として捉え、社会との関係からスポーツの特徴やあり方が理解できるようになる。さらにわが国のスポーツ文化の特徴や今後の望ましいあり方について思考できる能力を身につける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	わが国のスポーツの現状や望ましいスポーツのあり方について説明できる。				
■	情意的領域	スポーツ指導やスポーツ集団の運営に関心をもち、意欲的に取組むことができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
テキストに沿って、その内容および関連事項について解説する。また各章が終わった時点で、内容の理解のための小テストを行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] スポーツ社会学とは何か [内容] オリエンテーションを兼ね、スポーツ社会学とは何かを解説する。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと			⑨	[テーマ] スポーツ参与とスポーツ的社会化(2) [内容] スポーツへの社会化とスポーツ・ドロップアウト、バーンアウトについて解説する。 [授業外学習] スポーツドロップアウトやバーンアウトの原因について考えておくこと	
②	[テーマ] 現代スポーツの特徴と「スポーツの危機」 [内容] 現代スポーツの特徴を解説するとともに、「スポーツの危機」と言われるスポーツをめぐる諸問題について説明する。 [授業外学習] スポーツにおける諸問題について発表できるようにしておくこと			⑩	[テーマ] スポーツ参与とスポーツ的社会化(3) [内容] 日本人のスポーツ参与の実態と生涯スポーツの課題について解説する。 [授業外学習] 日本人のスポーツ参加のデータを調べておくこと	
③	[テーマ] スポーツと社会(1) [内容] 近代スポーツの誕生とその社会的背景について解説する。 [授業外学習] イギリス近代社会の特徴について理解しておくこと			⑪	[テーマ] スポーツ集団(1) [内容] わが国のスポーツ集団の特徴とその背景について解説する。 [授業外学習] 大学運動部の歴史について簡単に調べておくこと	
④	[テーマ] スポーツと社会(2) [内容] 現代社会におけるスポーツの意義や役割について解説する。 [授業外学習] 現代社会とはどのような特徴を持つのかを理解しておくこと			⑫	[テーマ] スポーツ集団(2) [内容] 望ましいスポーツクラブづくりについて解説する。 [授業外学習] テキスト48頁から52ページを熟読しておくこと	
⑤	[テーマ] スポーツと文化(1) [内容] スポーツの文化的性格について解説する。 [授業外学習] 文化とは何かを調べておくこと			⑬	[テーマ] スポーツと政治・経済(1) [内容] スポーツと政治との関係について解説する。 [授業外学習] ベルリン(1936)や東京(1964)のオリンピックについて調べておくこと	
⑥	[テーマ] スポーツと文化(2) [内容] 文化論的プレイ論(ホイジンガ、カイヨワのプレイ論)について解説する。 [授業外学習] ホイジンガやカイヨワという学者について簡単に調べておくこと			⑭	[テーマ] スポーツと政治・経済(2) [内容] スポーツと経済との関係について解説する。 [授業外学習] テキスト154・155頁を熟読しておくこと	
⑦	[テーマ] スポーツと文化(3) [内容] スポーツ文化の構成要素とスポーツ観について解説する。 [授業外学習] 自らのスポーツ観について発表できるようにしておくこと			⑮	[テーマ] 地域スポーツの課題と総合型地域スポーツクラブ [内容] 総合型地域スポーツクラブについて、その理念や課題等について解説する。 [授業外学習] 身近な地域スポーツやそのクラブの特徴について調べておくこと	
⑧	[テーマ] スポーツ参与とスポーツ的社会化(1) [内容] スポーツ参与およびスポーツ的社会的概念について解説する。 [授業外学習] 野生児(アヴェロンの野生児、狼少女)について調べておくこと			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確認するための期末試験を行う。 [授業外学習] テキストを熟読し、復習しておくこと	
成績評価方法(方針)						
期末試験の成績(評価割合80%)を基本とするが、小テストの成績(評価割合20%)、および積極的な授業態度も加点する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・テキストに沿って授業を行うので、必ず下記テキストを準備し、予習をしておくこと。 ・受講は静粛を旨とし、質問に対しては積極的に発言すること。
定期試験		◎			80%	
授業内レポート		◎			20%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度			○		加点あり	
出席						
関連科目	スポーツ経営学(1年)、地域スポーツ論(2年)					
教科書	丸山富雄編著『現代スポーツ論』中央法規出版				参考書	
連絡先	荒牧研究室					

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名		スポーツ心理学 Sport Psychology (L.)			担当教員	栗木一博/菊地直子	
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	ジュニアスポーツ指導員	
	履修の方法	必修	単位数	2			
授業の概要							
メンタルトレーニングの実践などスポーツに取り組む多くの人の中で心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義ではスポーツの場面に存在する様々な問題を心理学的に解説する。さらに、それを競技力の向上やスポーツの指導のために応用する方法について解説する。							
授業の一般目標							
スポーツ心理学の基礎的な事項を学習し、競技力の向上やスポーツ指導の場面に存在する様々な問題を心理学的に把握できる。さらに、自分自身の競技生活やスポーツの指導場面にこれらの知識を当てはめて考えることができる。							
授業の到達目標							
■	認知的領域	スポーツ心理学の基礎的な事項についての説明ができる。スポーツ場面に存在する問題を心理学的に捉えることができる。					
■	情意的領域	スポーツ場面の問題点に対して主体的に興味を持ち、心理学的に焦点を当てて考えることができる。					
□	技能表現的領域						
授業計画(全体)							
スポーツ心理学の基礎的な知識に関する解説を行なう。それらが実際のスポーツ場面で応用できるように自分自身のスポーツ経験に照らし合わせて考える時間や具体的な事例の提示を行なう。学習内容の振り返りのために小レポートを実施し、理解度到達度を確認する。							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方について解説する。 [授業外学習]シラバスを熟読すること。				⑨	[テーマ] スポーツとこころの健康 [内容] メンタルヘルスに関する問題やその重要性について解説する。それとともに、スポーツと発達についても触れる。 [授業外学習]コミュニケーションということばの意味について調べる。	
②	[テーマ] スポーツにおける心理アセスメント [内容] 心理テストを利用して心理的なアセスメントを行なうとともに、その利用方法について解説する。 [授業外学習]どのような心理テストがあるのかを調べておく。				⑩	[テーマ] スポーツ選手のアイデンティティ [内容] スポーツの低年齢化や高度化に伴い、スポーツ選手のアイデンティティがどのように形成されていくのか解説する。 [授業外学習]「自我同一性」ということばについて調べておく。	
③	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論① [内容] 認知、情動、欲求の各側面から今日までの動機づけ理論について解説する。 [授業外学習]「やる気」とはどのようなものか発表できるように準備する。				⑪	[テーマ] ストレスの概念と生体の反応及びアセスメント [内容] ストレスの概念・定義及び各因子について解説するとともに、その評価方法についても解説する。 [授業外学習]自分のストレスについてまとめておく。	
④	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論② [内容] 原因帰属理論、内発的動機づけ理論などについて解説する。スポーツ場面における動機づけ理論の応用について解説する。 [授業外学習]前回学習した動機づけ理論の基礎について確認をする。				⑫	[テーマ] スポーツ選手の性格 [内容] スポーツ選手の生きている現実的・心理的世界を探索し、理解させる。 [授業外学習]自分のストレスを評価してみる。	
⑤	[テーマ] スポーツにおける目標設定 [内容] 動機づけを高める手法としての目標設定について解説する。 [授業外学習]自分の目標をワークシートに表現できるように整理する。				⑬	[テーマ] スポーツカウンセリング① [内容] スポーツに関与するうちに起こるスポーツ障害、およびストレスについて解説する。 [授業外学習]スポーツ選手の育つ環境的側面について復習しておく。	
⑥	[テーマ] スポーツにおける集中力① [内容] 「注意」の性質について解説する。スポーツにおける「集中力」の性質について解説する。 [授業外学習]「集中力」ということばの意味について調べておく。				⑭	[テーマ] スポーツカウンセリング② [内容] 熱中度の高いスポーツアスリートのスポーツにおける滞りとその背景、症状について解説する。 [授業外学習]スポーツ障害とアスリートの背景について復習する。	
⑦	[テーマ] スポーツにおける集中力② [内容] 情報処理モデルを用いて注意集中について解説する。集中力のコントロールのための方法について解説する。 [授業外学習]前回学習した「集中力」について確認する。				⑮	[テーマ] スポーツカウンセリング③ [内容] スポーツ選手のこころの健康と競技について、示唆し、考えさせる。 [授業外学習]スタンプやプラトーについて調べる。	
⑧	[テーマ] スポーツとリーダーシップ [内容] 特性論、類型論、機能論、状況適合論からリーダーシップ理論について解説する。また、グループダイナミクスについて解説する。 [授業外学習]望ましいリーダー像について説明できるようにしておく。				⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度を測定するための試験を実施する。 [授業外学習]テストの準備をしておく。	
成績評価方法(方針)							
試験は、期末試験を一回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す。そしてこれらの結果を総合して成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず、欠格条件となる。							
成績評価方法(詳細)							
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)	
定期試験		◎			60%		
授業内レポート		○	◎		40%		
授業外レポート							
演習・実技							
授業態度							
出席							
関連科目							
教科書					参考書		
連絡先	栗木研究室(E棟2階:内線336)、菊地研究室(第4体育館1階:内線429)						

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名		子どもの生活 I Children's life I			担当教員	針生 弘
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	単独・講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
<p>幼児教育において、幼児の生活を知ることは基本である。幼児は家庭や保育所・幼稚園での生活、日常の遊びなどの具体的な体験を通して、身近な人々や社会、自然と関わっている。本授業では、小学校の生活科の観点から、幼児の自然環境や社会環境との関わり、社会的な生活感覚について考えていく。また、環境との関わりの中から生まれる幼児の気づきや行動を知り、その指導や援助の方法について理解する。</p>						
授業の一般目標						
<p>小学校の生活科の観点から、幼児の自然環境や社会環境との関わりや社会的な生活感覚について考え、その気づきや行動、そして幼児に対する指導や援助の方法について理解できるようにする。</p>						
授業の到達目標						
■	認知的領域	幼児の環境との関わりや生活行動について理解する。				
■	情意的領域	幼児の環境との関わりや生活行動に対して関心を持ち、授業内容を踏まえながら、援助の在り方を主体的に考えていく。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
授業テーマに合わせ、参考文献やパワーポイントの講義を中心とし、必要に応じ資料を配付する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ]「オリエンテーション」 [内容] 授業全体、授業の進め方、評価方法について説明する。 [授業外学習]シラバスをよく読む。			⑨	[テーマ]「リズム運動と幼児の発達(2)」 [内容]② 多くの保育所や幼稚園で取り組んでいるリズム運動について理解する。 [授業外学習]リズム運動の下調べをする。	
②	[テーマ]「育ちのきほん(1)」 [内容] 0歳～3歳の乳幼児の発達と生活・育ち(かしこさ・自我)について理解する。 [授業外学習]0～3歳児の乳幼児の生活について調べる。			⑩	[テーマ]「幼児と健康」 [内容] 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す、心身の健康について理解する。 [授業外学習]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読む。	
③	[テーマ]「育ちのきほん(2)」 [内容] 3歳～5歳の乳幼児の発達と生活・育ち(かしこさ・自我・友だち)について理解する。 [授業外学習]3～5歳児の幼児の生活について調べる。			⑪	[テーマ]「幼児と人間関係」 [内容] 他の人々と親しみ、支え合って生活するための、自立心、人と関わる力について理解する。 [授業外学習]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読む。	
④	[テーマ]「育ちのきほん(3)①」 [内容] 小学校低学年から高学年の児童の生活と育ちについて理解する。 [授業外学習]小学校児童の生活について調べる。			⑫	[テーマ]「幼児と環境」 [内容] 周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力について理解する。 [授業外学習]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読む。	
⑤	[テーマ]「育ちのきほん(3)②」 [内容] 小学校低学年から高学年の児童の生活と育ちについて理解する。 [授業外学習]小学校児童の生活について調べる。			⑬	[テーマ]「幼児と言葉」 [内容] 自分なりの言葉で表現し、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度、言葉に対する感覚や表現力について理解する。 [授業外学習]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読む。	
⑥	[テーマ]「幼児と生活リズム(1)」 [内容] 現代の子どもが抱えている発達上の問題点について理解する。 [授業外学習]生活リズムの問題点について調べる。			⑭	[テーマ]「幼児と表現」 [内容] 感じたことや考えたことの表現を通して、幼児の感性や表現力、創造性について理解する。 [授業外学習]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読む。	
⑦	[テーマ]「幼児と生活リズム(2)」 [内容] 現代の子どもが抱えている発達上の問題点に対する取り組み方を理解する。 [授業外学習]生活リズム上の課題解決について調べる。			⑮	[テーマ]「まとめ」 [内容] これまでの学習内容の復習をする。 [授業外学習]次回の試験に備えて復習をする。	
⑧	[テーマ]「リズム運動と幼児の発達(1)」 [内容]① 多くの保育所や幼稚園で取り組んでいるリズム運動について理解する。 [授業外学習]リズム運動の下調べをする。			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
ミニテスト・レポート(30%)と期末試験(70%)に基づき、総合的に評価する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする。・評価は、ミニテスト・レポート等が30%、期末試験が70%とし、総合的に評価する。
定期試験		◎	◎		70%	
授業内レポート			◎		30%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度						
出席						
関連科目						
教科書	「幼稚園教育要領 保育所保育指針 小学校指導要領解説生活編」				参考書	
連絡先						

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名		子どもの生活Ⅱ Children's life Ⅱ			担当教員	針生 弘
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	単独・講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
本授業では、小学校の生活科の観点から、子どもの生活と幼稚園や保育所、学校、家庭、地域、自然環境等との関わりについて考えていく。また、人々や環境との関わりの中から生まれる子どもの気づきや行動を知り、その指導や援助の方法について理解する。						
授業の一般目標						
子どもの社会環境や自然環境との関わりについて考え、子どもに対する指導の方法や援助の方法について理解できるようにする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	子どもの環境との関わりについて考え、指導や援助の方法について理解する。				
■	情意的領域	子どもと環境との関わりについて関心を持ち、授業内容を踏まえながら、指導や援助の方法を主体的に考えていく。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
授業テーマに合わせ、参考文献やパワーポイントの講義を中心とし、必要に応じ資料を配付する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体、授業の進め方、評価方法について理解する。 [授業外学習] シラバスをよく読む。			⑨	[テーマ] 子どもと季節(冬) [内容] 子どもの生活と冬の関わりについて理解する。 [授業外学習]	
②	[テーマ] 子どもと環境 [内容] 子どもと社会環境や自然環境との関わりについて理解する。 [授業外学習]			⑩	[テーマ] 子どもの一日 [内容] 子どもの一日の生活を知り、社会環境や自然環境との関わりについて理解する。 [授業外学習]	
③	[テーマ] 子どもの健康及び安全 [内容] 子どもの生命の保持と健やかな生活の基本である健康及び安全について理解する。 [授業外学習]			⑪	[テーマ] 子どもと地域① [内容] 子どもと地域という社会環境との繋がりについて理解する。 [授業外学習]	
④	[テーマ] 子どもと植物 [内容] 子どもが身近な植物に関心を持ち、世話をし、継続的に育てる栽培活動の意義について理解する。 [授業外学習]			⑫	[テーマ] 子どもと地域② [内容] 子どもと地域という社会環境との繋がりについて理解する。 [授業外学習]	
⑤	[テーマ] 子どもと生物 [内容] 子どもが身近な生物に関心を持ち、世話をし、継続的に育てる飼育活動の意義について理解する。 [授業外学習]			⑬	[テーマ] 子どもと公共施設 [内容] 子どもと地域の中にある公共施設との繋がりについて理解する。 [授業外学習]	
⑥	[テーマ] 子どもと季節(春) [内容] 子どもの生活と春の関わりについて理解する。 [授業外学習]			⑭	[テーマ] 子どもと創作活動 [内容] 子どもと創作活動との関連について理解する。 [授業外学習]	
⑦	[テーマ] 子どもと季節(夏) [内容] 子どもの生活と夏の関わりについて理解する。 [授業外学習]			⑮	[テーマ] 「まとめ」 これまでの学習内容の復習をする。 [授業外学習]	
⑧	[テーマ] 子どもと季節(秋) [内容] 子どもの生活と秋の関わりについて理解する。 [授業外学習]			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
ミニテスト・レポート(30%)と期末試験(70%)に基づき、総合的に評価する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	*2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする。*評価は、ミニテスト・レポート等が30%、期末試験が70%とし、総合的に評価する。
定期試験		◎	◎		70%	
授業内レポート					30%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度						
出席						
関連科目						
教科書	「幼稚園教育要領 保育所保育指針 小学校指導要領解説生活科編」				参考書	
連絡先						

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	体育講義			担当教員	郡山 孝幸
	Physical education lecture				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義・実技	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	1	
授業の概要					
本授業では、発達段階に応じた運動遊びの導入から応用まで、幼児体育の学習内容及び指導方法についての理解を深めることを目的とし、講義並びに実技を展開する。					
授業の一般目標					
運動遊びと小学校低学年体育を指導できるスキルを身に付けさせる。併せて健康と運動・心身の関係について理解を深め、自分の体や心を自ら育て管理していく姿勢を身に付けさせる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	運動遊びの展開の方法の基礎を身に付ける。				
■ 情意的領域	幼児に体を動かすことの楽しさを伝えることができるように、自らも運動遊びの楽しさを体感することができる。				
■ 技能表現的領域	運動遊びを考案し、他学生と共にグループ内で体育の教え合いができる。				
授業計画(全体)					
各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために実技を行う。運動遊びの展開における協力や工夫について評価・確認する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。			⑨	
②	[テーマ] 幼児期運動指針について① [内容] 幼児期における身体活動の現状と問題点を知る。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑩	
③	[テーマ] 幼児期運動指針について② [内容] 幼児期における運動の意義「体力・運動能力の基礎を培うための取り組み」について理解を深める。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑪	
④	[テーマ] 器械・器具を使つての運動遊びの指導について [内容] 器械・器具を使つての運動遊びについて知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑫	
⑤	[テーマ] 走・跳の運動遊びの指導について [内容] 走・跳の運動遊びについて知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑬	
⑥	[テーマ] 水遊びの指導について [内容] 水遊びの方法について知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑭	
⑦	[テーマ] 運動遊びについて [内容] 多様な運動遊びの具体例について知る。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑮	
⑧	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。			⑯	
成績評価方法(方針)					
試験は期末試験を1回実施する(評価割合25%)。また、授業態度(評価割合20%)や授業内実技発表(評価割合35%)を特に重視する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			25%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技				◎	35%
授業態度			◎		20%
出席			◎		20%
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。 ・授業中は携帯電話をかばんの中に入らなすこと。 ・授業中の私語は慎み授業に集中すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。 					
関連科目					
教科書	特に指定しない			参考書	小学校学習指導要領、幼児期運動指針
連絡先					

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	幼児体育論			担当教員	金 賢植
	Physical education for young children				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
<p>本授業は、幼児体育指導員が保育所、幼稚園、幼児体育現場などで必要な幼児体育に関する基礎知識、幼児体育のあり方や基本理念を解説する。また、現在の社会環境を踏まえながら、身体を使うことの意味を幅広く考えて、心身の発達を保障する身体活動の意味と必要性について講義する。</p>					
授業の一般目標					
<p>幼児の体育を、幼児のための身体活動を通じた教育としてとらえ、運動あそびに視点をおいて、保育の内容を理解し、幼児の発達特性をふまえながら幼児のあそびを豊かに展開するために必要な知識を習得する。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	幼児体育の必要性を理解し、幼児体育指導員に必要な知識を身につけることができる。			
■	情意的領域	幼児体育に興味を持ち、積極的に幼児体育指導に参加できるようになる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
<p>授業の前半は、幼児体育の意義および重要性など基礎的な知識を学ぶ。後半は、幼児体育指導上の留意事項、体力・運動能力の測定評価、安全管理など現場に必要な実践的な知識を学ぶ。授業方法は、パワーポイントを用いた知識伝達型と積極的な授業への参加ができる小グループ型を適切に導入して講義を行う。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学習]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 幼児期の体力・運動能力、運動スキルの発達 [内容] 体力・運動能力、運動スキル、身体認識と空間認知能力 [授業外学習]幼児期運動指針について調べる
②	[テーマ] 幼児体育とは [内容] 幼児体育の意義と役割、幼児体育のねらい [授業外学習]近年、子どもたちの生活リズムについて考えておく			⑩	[テーマ] 幼児期運動指針とは [内容] 幼児期運動指針の背景、幼児期運動指針が策定された意図 [授業外学習]幼児体育指導上の留意事項について考えておく
③	[テーマ] 近年の子どもの体の異変とその対策 [内容] 生活リズムに乱れ、増える体温異常、乳幼児からの脳機能のかく乱 [授業外学習]近年、子どもたちの抱える問題について考えておく			⑪	[テーマ] 幼児体育指導上の配慮 [内容] 幼児体育指導上の留意事項、用具の理解 [授業外学習]障がい児指導の留意事項について考えておく
④	[テーマ] 幼児期、運動あそびの重要性 [内容] 子どもの抱える問題とその原因 [授業外学習]子どもたちの身体活動量について調べる			⑫	[テーマ] 障がい児の体育① [内容] 視覚障がい児、聴覚障がい児、言語障がい児、知的障がい児 [授業外学習]障がい児指導の留意事項について考えておく
⑤	[テーマ] 子どもの生活と運動 [内容] 運動量の確保、子どもの生活リズムと外あそびの関係 [授業外学習]子どもの発育発達段階について調べる			⑬	[テーマ] 障がい児の体育② [内容] 肢体不自由児、発達障がい児 [授業外学習]体力・運動能力の測定評価について調べる
⑥	[テーマ] 子どもの発達と運動 [内容] 乳児期の発育・発達と運動、幼児期の発育・発達と運動 [授業外学習]頭脳の構造と役目について調べる			⑭	[テーマ] 体力・運動能力の測定評価 [内容] 測定・評価の目的、測定・評価方法 [授業外学習]子どもの応急処置について調べる
⑦	[テーマ] 運動と頭脳発達 [内容] 頭脳の構造と役目、年齢別頭脳発達と運動 [授業外学習]子どもたちの運動あそびについて考えておく			⑮	[テーマ] 運動と安全管理 [内容] 運動時におこりやすいけが、病気、応急処置の基本 [授業外学習]最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ] 運動発現メカニズム [内容] 意識的運動、運動技術の上達のプロセス [授業外学習]近年、子どもたちの体力・運動能力について調べる			⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習]テストの準備をしておく
成績評価方法(方針)					
<p>試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。</p>					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	◎		80%
授業内レポート				○	20%
授業外レポート					無し
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点アリ
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)	私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。				
関連科目	幼児体育指導論(2年)				
教科書	『幼児体育(理論と実践)』: 日本幼児体育学会			参考書	『幼児期運動指針実践ガイド』: 日本発育発達学会
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	子どもと発育				担当教員	金 賢植
	Child development					
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	幼稚園教諭一種、保育士資格、幼児体育指導員
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						
<p>子どもの成長に伴う、からだの発育と機能の発達過程を理解することは、幼児教育者のみならず幼児体育指導員にとって必要な要素である。本授業では、発達に関わる幼児教育者・幼児体育指導員に必要な発育発達論についても学習し、主体がめざす発達の方向性や時代が要求する発育・発達への科学的アプローチについて教育の視点から理解を深める。</p>						
授業の一般目標						
<p>子どもの成長における発育・発達の特徴についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢における発育・発達特性を考慮した運動遊びの指導の重要性を認識し、発育・発達への科学的アプローチを理解する。</p>						
授業の到達目標						
■	認知的領域	子どもの形態の発育、機能の発達を理解し、幼児体育指導員に必要な発育・発達への科学的知識を身につけることができる。				
■	情意的領域	子どもの発育特性に関する基礎知識、データ分析方法について感心を持つことができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
<p>授業の前半は、子どもの発育に関する基礎的な知識を学ぶ。後半は、子どもの発育に影響を及ぼす要因、発育速度の分析、体力の将来予測など現場に必要な実践的な知識を学ぶ。授業方法は、パワーポイントを用いた知識伝達型と積極的な授業への参加ができる小グループ型を適切に導入して講義を行う。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学習] シラバスを熟読すること</p>				⑨	<p>[テーマ] 機能の発達 [内容] 器官や組織の発育・発達の变化、筋力・神経系の機能の発達 [授業外学習] 子どもたちの運動能力構造・変化について考えておく</p>
②	<p>[テーマ] 発育・発達の基礎 [内容] 発育・発達の概念、身体発達に関する課題 [授業外学習] 子どもたちの体格、体力、運動能力の発達について調べる</p>				⑩	<p>[テーマ] 運動能力構造の変化 [内容] 運動技能の分化と統合の実際、子どもの運動能力構造・変化の実際 [授業外学習] 子どもの生活と健康上の問題について調べる</p>
③	<p>[テーマ] 子どもの運動能力の発達 [内容] 神経の発達と運動の発現、投・走・跳運動の発達 [授業外学習] 子どもたちの体格、体力、運動能力の発達について調べる</p>				⑪	<p>[テーマ] 身体発達に影響する要因と問題 [内容] 身体発達に影響する要因、子どもの生活と健康上の問題 [授業外学習] 子どもの年齢特性について調べる</p>
④	<p>[テーマ] 子どもの運動能力 [内容] 基礎運動技能の発達、身体運動発現の順序性 [授業外学習] 子どもたちの体格、体力、運動能力測定について調べる</p>				⑫	<p>[テーマ] 形態発育から見た年齢特性 [内容] 発育現量値からみた年齢特性(0～5歳、6～17歳) [授業外学習] 子どもの発育速度について調べる</p>
⑤	<p>[テーマ] 子どもの運動能力測定 [内容] 投・走・跳技能の測定、複合動作技能(調整力)の測定 [授業外学習] 発育・発達現量値の分析について調べる</p>				⑬	<p>[テーマ] 子どもの発育速度の分析(0～5歳) [内容] 発育速度の变化の一般的傾向、発育速度の系年齢的变化 [授業外学習] 子どもの体力・運動能力の加齢的变化について調べる</p>
⑥	<p>[テーマ] 発育・発達現量値の分析 [内容] 発育・発達基準値と評価尺度の構成、発育・発達パターンの個人内変動 [授業外学習] 近年、子どもたちの運動遊びや体力の低下について考えておく</p>				⑭	<p>[テーマ] 体力・運動能力の発達 [内容] 横断データ、コーホートデータの比較、子どもの体力・運動能力の加齢的变化 [授業外学習] 年次変化の予測方法について調べる</p>
⑦	<p>[テーマ] 子どもの体力の構造と測定 [内容] 体力の構造と定義、運動遊びの不足と体力の低下 [授業外学習] 子どもたちの形態発育の経過や変化について調べる</p>				⑮	<p>[テーマ] 体力の将来予測 [内容] 年次変化の予測方法、予測に用いるデータ数の決定 [授業外学習] 最終回のテストに備えて復習をする</p>
⑧	<p>[テーマ] 形態の発育 [内容] 形態発育の経過、身体組成の変化 [授業外学習] 身体機能の発達について調べる</p>				⑯	<p>[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく</p>
成績評価方法(方針)						
<p>試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。</p>						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと) 私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。
定期試験		◎	◎		80%	
授業内レポート				○	20%	
授業外レポート					無し	
演習・実技					評価対象外	
授業態度					減点アリ	
出席					欠格条件	
関連科目	幼児体育指導論(2年)					
教科書	子どもの発育発達と健康、青柳 領、ナカニシヤ出版				参考書	統計的発育発達学、松浦 義行、不昧堂出版
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp					

《実技》

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	子どもとあそび			担当教員	郡山 孝幸
	Child and play				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
運動遊びについて、対象となる幼児の発達に適した指導案を作成し、作成した指導案に基づき幼稚園または保育所の幼児とともに運動あそびを実践する。実践後にディスカッションを行い、保育者がどのように準備し見守る必要があるかについて学ぶ。					
授業の一般目標					
本授業で設定した運動あそびテーマについて、自分の課題を認識し、幼児に運動遊びをさせていく際の基本的な考え方、準備、見守り等について理解を深めることができるようにする。さらに幼児に運動あそびの楽しさを伝えることができるように、自らもその楽しさを体感することができる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	幼児に楽しく運動遊びに取り組みせるための指導計画案を練り、実践に結び付けることができる。				
■ 情意的領域	幼児に運動遊びの楽しさを伝えることができるように、自らも一緒に楽しさを体感することができる。				
■ 技能表現的領域	幼児に運動遊びの楽しさを伝え、意欲を持たせながら、継続して取り組ませることができる。				
授業計画(全体)					
各授業のテーマに沿った実技を身につけることが中心であるが、より理解を深めるために幼稚園や保育園において実習を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。			⑨	[テーマ] 運動遊びの実際①(幼稚園または保育園にて実践演習) [内容] 幼稚園または保育所にて運動遊び指導を実習する。 [授業外学習] 実習の評価を行い次時への改善を図る。
②	[テーマ] 幼児の運動遊びについて [内容] いろいろな運動遊びの種類や場の作り方について学び、幼児に対して指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておく。			⑩	[テーマ] 運動遊びの実際②(幼稚園または保育園にて実践演習) [内容] 幼稚園または保育所にて運動遊び指導を実習する。 [授業外学習] 実習の評価を行い次時への改善を図る。
③	[テーマ] 運動遊びのパターンとバリエーションを考える [内容] 幼児が意欲をもって継続的に運動遊びに取り組めるようなパターン、バリエーションについて学ぶ。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておく。			⑪	[テーマ] 運動遊びの実際③(幼稚園または保育園にて実践演習) [内容] 幼稚園または保育所にて運動遊び指導を実習する。 [授業外学習] 実習の評価を行い次時への改善を図る。
④	[テーマ] 幼稚園教育要領と指導計画の作成について [内容] 幼稚園教育要領と指導計画の作成について学び、指導計画を立案できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておく。			⑫	[テーマ] 運動遊びの実際④(幼稚園または保育園にて実践演習) [内容] 幼稚園または保育所にて運動遊び指導を実習する。 [授業外学習] 実習の評価を行い次時への改善を図る。
⑤	[テーマ] 保育指導案の作成について [内容] 保育指導案の作成の具体について学び、実際に作成できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして保育指導案の構想を練る。			⑬	[テーマ] 運動遊びの実際⑤(幼稚園または保育園にて実践演習) [内容] 幼稚園または保育所にて運動遊び指導を実習する。 [授業外学習] 実習の評価を行い次時への改善を図る。
⑥	[テーマ] 保育指導案の作成① [内容] 幼児が目の前にいることを想定しながら、運動遊びに関する指導案を作成する。 [授業外学習] 授業の復習をして指導案作成を進める。			⑭	[テーマ] 実習後の振り返り① [内容] 実習の体験を持ち寄り運動遊びの行わせ方を共有する。 [授業外学習] 自分なりの指導の方法についてまとめる
⑦	[テーマ] 保育指導案の作成② [内容] 幼児が目の前にいることを想定しながら、運動遊びに関する指導案を作成する。 [授業外学習] 保育指導案を完成させる。			⑮	[テーマ] 実習後の振り返り② [内容] 実習の体験を持ち寄り運動遊びの行わせ方を共有する。 [授業外学習] 自分なりの指導の方法についてまとめる
⑧	[テーマ] 小学校学習指導要領(低学年体育)について [内容] 小学校低学年の体育の概要について学び、運動遊びからの発展の方向性について知る。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておく。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習しておくこと。
成績評価方法(方針)					
試験は期末試験を1回実施する(評価割合35%)。また、実習態度(評価割合50%)や授業態度(評価割合15%)を特に重視する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎			35%	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。 授業中は携帯電話をかばんの中に入らないこと。 授業中の私語は慎み授業に集中すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技			◎	50%	
授業態度		◎		15%	
出席					
関連科目					
教科書	特に指定しない			参考書	小学校学習指導要領、幼児期運動指針
連絡先					

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	トレーニングの基礎 Basic Theory and Practice for Sports Training			担当教員	門野・阿部・河野・桑原・黒澤・佐藤(周)・柴山・鈴木(良) ・武石・坪井・仲田・溝口・宮崎・山梨・吉井・渡邊
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	1	
授業の概要					
形態および体力を測定、評価し、それらを向上させるためのトレーニング理論および方法について実習を行なう。					
授業の一般目標					
①形態および体力の測定方法と評価方法を理解する。 ②体力を高めるためのトレーニングに関する基礎理論と方法を理解する。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	形態および体力の測定・評価方法が説明できる。 体力を高めるためのトレーニングに関する基礎理論と方法が説明できる。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	形態および体力の測定・評価ができる。 体力を高めるためのトレーニングが実践できる。			
授業計画(全体)					
形態および6つの体力要素(筋力、スピード・敏捷性、パワー、持久力、柔軟性、調整力)について、実際にこれらを測定し、評価を行なう。また、6つの体力要素を向上させるためのトレーニングの理論と方法について、実技と講義を交えて授業を行なう。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業計画について説明する。			⑨	[テーマ] パワーを高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] ハイパワーを高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
②	[テーマ] 形態計測とその評価 [内容] 身長、体重、体組成を測定し、評価する。 測定方法と評価方法について学ぶ。			⑩	[テーマ] 持久力の測定と評価 [内容] 持久力を測定し、評価する。 持久力の測定方法と評価方法について学ぶ。
③	[テーマ] 新体力テストの実施とその評価 [内容] 新体力テストを実施し、自分の体力を評価するとともにその評価方法について学ぶ。			⑪	[テーマ] 持久力を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 持久力を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
④	[テーマ] 筋力の測定と評価 [内容] 筋力を測定し、評価する。 筋力の測定方法と評価方法について学ぶ。			⑫	[テーマ] 柔軟性の測定と評価 [内容] 柔軟性を測定し、評価する。 柔軟性の測定方法と評価方法について学ぶ。
⑤	[テーマ] 筋力を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 筋力を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。			⑬	[テーマ] 柔軟性を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 柔軟性を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
⑥	[テーマ] スピード、敏捷性の測定と評価 [内容] スピードと敏捷性を測定し、評価する。 スピードと敏捷性の測定方法と評価方法について学ぶ。			⑭	[テーマ] 調整力の測定と評価 [内容] 調整力を測定し、評価する。 調整力の測定方法と評価方法について学ぶ。
⑦	[テーマ] スピードを高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] スピードと敏捷性を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。			⑮	[テーマ] 調整力を高めるためのトレーニング理論と方法 [内容] 調整力を高めるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
⑧	[テーマ] パワーの測定と評価 [内容] ハイパワーを測定し、評価する。 ハイパワーの測定方法と評価方法について学ぶ。			⑯	[テーマ] まとめ [内容] 授業のまとめを行なう。
成績評価方法(方針)					
<ul style="list-style-type: none"> ①出席、②演習・実技、③授業外レポートによって評価を行なう。 テーマによっては授業内レポートを課す場合もある。 授業態度も評価に含む。 					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	◎			25%	
演習・実技			◎	25%	
授業態度		◎		減点対象	
出席		◎		50%	
関連科目					
教科書	ガイダンスにて配布するテキストを使用する。			参考書	
連絡先	門野洋介(A408、hr-kadono@sendai-u.ac.jp)				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	陸上競技 Track and Field			担当教員	門野洋介、柴山一仁、宮崎利勝、名取英二
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					
陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能を、実技を通して学ぶ。					
授業の一般目標					
陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性を理解し、基本的技能を身につける。 自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能がわかる。			
■	情意的領域	自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。			
■	技能表現的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の基本的技能が身につく。			
授業計画(全体)					
グループに分かれ、競走種目(短距離走、リレー、ハードル走)、跳躍種目(走高跳、走幅跳)、投てき種目(砲丸投)を複数回に分けて実施していく。 最後に実技試験を行ない、技能と記録を評価する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業計画について説明する。			⑨	[テーマ] 走高跳② [内容] 走高跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。
②	[テーマ] 短距離走① [内容] 短距離走のスタート～加速局面における疾走技能について学習する。			⑩	[テーマ] 走幅跳① [内容] 走幅跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。
③	[テーマ] 短距離走② [内容] 短距離走の中間疾走局面における疾走技能について学習する。 レースを行ない、記録を計測する。			⑪	[テーマ] 走幅跳② [内容] 走幅跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。
④	[テーマ] リレー① [内容] リレーのルールに基づいた、スムーズなバトンの渡し方について学習する。			⑫	[テーマ] 砲丸投① [内容] 砲丸投の立ち投げの技能について学習する。
⑤	[テーマ] リレー② [内容] スムーズなバトンパスができるように練習する。 レースを行ない、記録を計測する。			⑬	[テーマ] 砲丸投② [内容] 砲丸投のグライド投法の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。
⑥	[テーマ] ハードル走① [内容] ハードリングの技能について学習する。			⑭	[テーマ] 実技試験① [内容] 走(短距離走、ハードル)の記録を測定する。
⑦	[テーマ] ハードル走② [内容] インターバルの走り方について学習する。 レースを行ない、記録を計測する。			⑮	[テーマ] 実技試験② [内容] 跳(走高跳、走幅跳)の記録を測定する。
⑧	[テーマ] 走高跳① [内容] 走高跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。			⑯	[テーマ] 実技試験③ [内容] 投(砲丸投)の記録を測定する。
成績評価方法(方針)					
・①出席、②各種目の記録、③実技試験で評価する。 ・授業態度も評価に含む。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技	◎	◎	◎		50%
授業態度		◎			
出席		◎			50%
関連科目					
教科書				参考書	
連絡先	門野洋介(A408, hr-kadono@sendai-u.ac.jp)				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名		水 泳 Swimming (P. A.)		担当教員	渡邊 泰典
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
水泳は老若男女問わず、生涯にわたって親しむことができる代表的運動である。本授業では、水の物理的・生理的特性について講義すると共に、実際に水が身体に及ぼす影響を紹介して、その活用方法を提示する。また、水泳技能習得のための指導に加えて、水泳不得意者を対象とした指導上のコツや留意点(安全管理に関する内容を含む)について説明し、理論と実践を通して水泳の基礎能力を養成する。					
授業の一般目標					
体温、心拍数、代謝、姿勢などの観点から、水が身体に及ぼす影響を理解する。水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を理解する。水中での身体の使い方と呼吸の仕方を理解し、状況に応じて使い分けができるようになる。水泳動作のメカニズムと、指導法を理解する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	水泳・水中運動の基本的技能とそのメカニズムを理解し、説明することができる。水中事故を未然に防ぐための方法を理解し、安全に配慮して運動することができる。			
■	情意的領域	水中特有の浮遊感の中で、運動することの楽しさを知る。水泳技能の習得と向上、泳タイムの短縮を通して、水泳・水中運動に興味を持てるようになる。			
■	技能表現的領域	泳げない者は泳げるようになる。泳げる者は自らの技能の向上と泳タイムの短縮はもとより、水泳不得意者に対する指導体験を通して、泳法指導の基礎を身につける。			
授業計画(全体)					
最初に教室にて水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を講義する。続いてプールにて実技に入り、浮き身及びその応用として立泳ぎを教示した後、クロール・平泳ぎの2種目について、そのメカニズムと指導法を紹介する。ここでいったん泳法検定を実施し、水泳技能を見極める。その後の授業では、高技能者は指導体験を、低技能者と初心者には泳法習得のためのトレーニングを重ねる。本授業では、水泳の基本技能の習得と、泳げるようにするためのプロセスについて学ぶ。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の趣旨・内容・展開方法等について説明する。			⑨	[テーマ] 第1次泳法実技検定【実技】 [内容] 事前能力調査によりA評価を受けた者に対し、100m個人メドレー(50Fr+50Br)の泳法検定を行う。合格者は指導体験に移行される。B評価以下と判定された者はノルマ練習を行う。
②	[テーマ] 水泳指導法【講義】 [内容] 「水泳指導者とはどうあるべきか」を主たるテーマに、必要条件、資質、取り組み方、泳法理論等を指導者の立場から理解させる。			⑩	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング①【実技】 [内容] これより、第2次泳法検定合格を目指し、トレーニング期間と成る。第1次検定合格者はこれより、不合格者を対象に初心者指導体験を行う。不合格者は指導員に代い練習を行う。クロール系と平泳ぎ系練習を隔週ごとに分けて実施する。
③	[テーマ] 水中安全管理と安全対策【講義】 [内容] 指導上のマナー、事故と責任、環境整備、用具の取り扱いと管理の方法、水泳の衛生管理、事故とその判例等について解説する。			⑪	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング②【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。
④	[テーマ] 水慣れ、およびクロール・平泳ぎ能力調査【実技】 [内容] プールでの誓約、利用上の規則周知、入水時のマナー、水慣れ。			⑫	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング③【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。
⑤	[テーマ] 浮き身・立泳ぎ(巻足)泳法の原理紹介、体験【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、初心者指導にも繋がる浮き身・立泳ぎの原理、習得方法を解説、実技体験をしながら習得する。			⑬	[テーマ] 水泳・水中運動①【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際 ・水中ウォーキング等
⑥	[テーマ] クロール・背泳ぎ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、クロール泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説、さらにその原因を改善するための矯正法、すなわち、指導法を紹介する。			⑭	[テーマ] 水泳・水中運動②【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際 ・アクアビクス等
⑦	[テーマ] 平泳ぎ・バタフライ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、平泳ぎ泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説する。			⑮	[テーマ] 水泳・水中運動③【講義】 [内容] 教室にて水中における運動指導にかかわる知識(健康運動指導士、健康運動実践指導者資格取得にも関わる)水の原理、水泳の特性、効果等について講義・紹介する。
⑧	[テーマ] クロール・平泳ぎの初心者指導法紹介【実技】 [内容] クロール・平泳ぎを対象に、泳げない原因を改善するための矯正法、すなわち、初心者指導法を紹介する。			⑯	[テーマ] 水泳・水中運動④、第2次泳法実技検定【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際の実技トレーニング、及び、水泳不合格者を対象に、100m個人メドレー(50Fr+50Br)の泳法検定を行う。
成績評価方法(方針)					
実技では、100m(50mクロール+50m平泳ぎ)完泳が最低合格ラインで(可)評価、これに立泳ぎ(1分間)完泳か背泳ぎ・バタフライ25m完泳で(良)評価となる。さらに指導体験を2回以上実施した者が(優)評価となる。(秀)評価は前述の全種目において高得点者に与えられる。なお、講義・理論授業は必ず出席。欠席の場合はその分、レポート提出等の課題が課せられ、怠った場合は(不)評価となる。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	①教職志望者は受講が望ましいが、必修ではない。 ②泳げるようになりたいと真剣に希望する者であれば、泳ぎが苦手であっても歓迎する。 ③海浜実習の受講希望者が望ましい。 ④本学指定の水着でしか受講できない。指定の水泳帽も必要となる。
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技	◎		◎	80	
授業態度					
出席				20	
関連科目	海浜実習、水上安全法(含実習)、種目別コーチング演習Ⅰ(水泳)、種目別コーチング演習Ⅱ(水泳)				
教科書	なし			参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室 渡邊泰典(ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp)				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	バレーボール			担当教員	石丸出穂・荒牧亜衣
	Volleyball (P.A.)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
<p>本授業は、6人制バレーボールの、基本的な運動技能(特にゲーム展開を広げるパス、サーブ、スパイク)の向上に重点を置き、前半は、バレーボールの練習法、指導法を紹介する。後半では、グループでの活動で生み出される、チームプレーの重要性を認識させ、仲間とのつながりを促し、ゲームを通して、バレーボールの戦術紹介、ルール・審判法を説明する。</p>					
授業の一般目標					
<p>バレーボールの基本的な運動技術、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、および、スパイク(少なくともジャンプなしでの打球の仕方)を身につけ、将来、指導する立場になった場合に、デモンストレーションを行えるようになる事が、本授業の大きな目標である。さらに、それらの技術を駆使して、仲間と協力しながら、戦術を理解し、ゲームを楽しむ方法を修得する。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	基本的な運動技術のポイントや、ルール、戦術を、知識として理解する。			
■	情意的領域	仲間との‘繋がり’が、プレーの‘繋がり’になる事を通して、ゲームを楽しめるようになり、バレーボールの戦術にも興味を持てるようになる。			
■	技能表現的領域	バレーボールの授業を行うことが出来るようになる、基本的な運動技術を身につける。			
授業計画(全体)					
<p>前半は、バレーボールの基本的な運動技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク・サーブの打球)の向上に重点を置くため、2〜3人組での個人技術のトレーニング中心の授業を行う。後半は、ゲームを中心とした授業の中で、バレーボールの戦術やルール・審判法の紹介、グループ活動での仲間との‘繋がり’作り、を行っていく。前半終了時と後半終了時に、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイクの打球、のチェックテストを行う。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法			⑨	[テーマ] ゲームへの展開②および、スパイク打球チェック [内容] W型のレセプションフォーメーションを理解したゲームを行い、同時進行で、スパイク打球のチェックを行う
②	[テーマ] オーバーハンドパス、スパイク打球の基本技術 [内容] オーバーハンドパス、スパイク打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う			⑩	[テーマ] ゲームへの展開③および、ブロックの基本技術 [内容] セッターを固定し、正確なトスから強力なスパイクが打てる可能性が高まるゲームを行い、ブロックの基本技術を紹介する
③	[テーマ] アンダーハンドパス、サーブ打球の基本技術 [内容] アンダーハンドパス、サーブ打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う			⑪	[テーマ] ゲームへの展開④ [内容] スパイクディフェンスフォーメーションを理解したゲームを行う
④	[テーマ] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの応用技術 [内容] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの、3人組のトレーニングを行う			⑫	[テーマ] ゲームへの展開⑤ [内容] ポジション別の役割を理解したゲームを行う
⑤	[テーマ] スパイクの基本技術 [内容] スパイクの基本、助走→踏切→打球→着地を説明し、トレーニングを行う			⑬	[テーマ] ゲームへの展開⑥ [内容] ポジション別の役割を理解し、ポジションにおける反則(アウトオブ・ポジション)を意識したゲームを行う
⑥	[テーマ] スパイクの応用技術 [内容] ゲームの流れに近いトレーニングを、段階的に行う			⑭	[テーマ] オーバーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、オーバーハンドパスのチェックテストを行う
⑦	[テーマ] バレーボールの歴史とルール [内容] バレーボールの誕生から現在に至るまでの歴史や、ゲームを行うためのルールや審判法などの講義を行う			⑮	[テーマ] アンダーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、アンダーハンドパスのチェックテストを行う
⑧	[テーマ] ゲームへの展開① [内容] スパイクを生かすゲームを目標に行う			⑯	[テーマ] [内容] 期末テストは行わない
成績評価方法(方針)					
<p>出席状況(15%)、授業態度【グループでの積極的かつ協力的な行動、授業のルールやマナーを守る】(20%)、チェックテスト【オーバーハンド、アンダーハンドパス、スパイク打球】(50%)、技術向上度(15%)を、総合的に評価する。ただし、欠席は3回までは認めるが、それ以上の場合、成績評価対象外とする。</p>					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験				評価対象外	<p>最初のガイダンスには必ず出席する事。欠席者は履修出来ないこともある。服装は、基本的に仙台大学指定のスウェット及びTシャツ。体育館用シューズを用意すること。はだしてシューズをはくのは不可。時計・指輪・ピアス・ネックレスははずす。着替えは2体の更衣室またはクラブハウスで行う。バッグ等の貴重品は各自で管理し、更衣室には絶対に置かないこと。試合で休む等は直接口頭で伝える事。それ以外は認めない。不幸があった際はあとから直接伝えること。遅刻は原則的に認めない。授業中は、分別ある行動を心がけること。授業の妨げになる行動を取る学生は、退出してもら場合もある。</p>
授業内レポート			◎	50%	
授業外レポート				評価対象外	
演習・実技	◎		○	15%	
授業態度		◎		20%	
出席	○	◎		15%	
関連科目	種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ(バレーボール)				
教科書	特に指定しない			参考書	Volleypedia バレーボール百科事典(日本バレーボール学会・編)
連絡先	荒牧研究室				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	バスケットボール Basketball (P.A.)			担当教員	児玉 善廣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					
本授業は競技形態、競技特性などを踏まえ、バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く。特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ、パス、ドリブルなどの操作能力を磨く。ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術、戦術を学び、審判法なども経験する。競技の基本戦術を理解し、ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする。					
授業の一般目標					
本授業は競技形態、競技特性などを踏まえ、バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く。特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ、パス、ドリブルなどの操作能力を磨く。ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術、戦術を学び、審判法なども経験する。競技の基本戦術を理解し、ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする。					
授業の到達目標					
<input type="checkbox"/>	認知的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	情意的領域	ゲームや諸々の身体運動によって、仲間との連携や協力ができ、楽しさなどを表現できる。			
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	スキルの向上が見え、基本技術が出来き、楽しさが理解できる。			
授業計画(全体)					
本授業は競技形態、競技特性などを踏まえ、バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く。特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ、パス、ドリブルなどの操作能力を磨く。ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術、戦術を学び、審判法なども経験する。競技の基本戦術を理解し、ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法			⑨	[テーマ] ゲームへの展開 I (スクリーミング) [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (1) 実践的シュート感覚とリバウンドの体感
②	[テーマ] バスケットボールの競技特性 [内容] バスケットボールの歴史の変遷と基本技術とルールの説明			⑩	[テーマ] ゲームへの展開 II (スクリーミング) [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (2) 攻防のバランス
③	[テーマ] 基礎技術 I [内容] 1) ボールコントロール 2) ボールハンドリング 3) パッシングの紹介			⑪	[テーマ] ゲーム I [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (1) マンツーマン・ディフェンスとゾーン・ディフェンスについて
④	[テーマ] 基礎技術 II [内容] シューティング 1) ドリブルとレイアップシュート			⑫	[テーマ] ゲーム II [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (2) 3ポイント・シュートの影響
⑤	[テーマ] 基礎技術 III [内容] シューティング 2) ジャンプシュートとリバウンド			⑬	[テーマ] ゲーム III [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (3) シュート率とリバウンドの影響
⑥	[テーマ] 基礎技術 IV [内容] 1) パッシングとドリブル 2) シューティングとの組み合わせ			⑭	[テーマ] ゲーム IV [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (4) シュート率とリバウンドの影響
⑦	[テーマ] ゲームの試み [内容] ゲームによる競技感覚の体感			⑮	[テーマ] オフェンス技術のまとめ I [内容] オフェンスプレイに必要な基本的技術の総合練習 (ドリブルチェンジ、クロスオーバーシュート、ゴールシュートのコンビネーション技術)
⑧	[テーマ] 基礎技術の総合練習 [内容] 1) ドリブル 2) ドリブルターン 3) レイアップシュート 4) ジャンプシュートの連続した組み合わせを体得する。			⑯	[テーマ] オフェンス技術のまとめ II [内容] ドリブルチェンジ、クロスオーバーシュート、ゴールシュートまでのコンビネーションプレイ
成績評価方法(方針)					
1・実技試験は期末に実施する。 2・出欠に関しては授業に対する意欲の1つと捉える。 3・授業態度も学科行動の評価として大切に扱う。以上を総合的に評価を行う。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・2/3以上の出席のない学生は単位を修得することは出来ない。 ・授業態度の悪い者や、著しく授業を妨げる行動と判断した者は、受講資格を失う。 ・授業用の専用ジャージを用意しているので、そのジャージを着用し参加すること。 ・授業計画は授業の進み方(技術体得状況)で若干変更する場合がある。
定期試験				30%	
授業内レポート				評価対象外	
授業外レポート				評価対象外	
演習・実技				30%	
授業態度				35%	
出席				欠格条件	
関連科目	種目別 コーチング演習 I・II (3年)、スポーツ・コーチング実習(3年)				
教科書	特になし			参考書	特になし
連絡先	研究室32 : 第5体育館3階 オフィスアワー : 前期/後期 木曜日 10:20 ~12:00				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	バスケットボール			担当教員	佐藤久夫・菅野恵子
	Basketball				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
<p>本授業はバスケットボールの競技特性を瞬時の攻防の切り替え(トランディション)と捉えた上で、攻防のシステムを段階的な実技を通して体得しながら、チームスポーツにおける役割と責任を学び専門分野への応用と人間的成長の礎とする。また、試合を運営する方法についても実践をもって指導する。</p>					
授業の一般目標					
<p>バスケットボールの基本技術や特性を活かした戦術とは何かを知り、指導者としてのレベルでチームスポーツを考えられるようになる。さらに、正確なルールを知り試合を運営する側の審判法や記録を経験することで、授業や課外活動での指導者としての能力を身に付ける。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	指導者のレベルでチームスポーツを考えられるようになる。			
■	情意的領域	役割と責任を果たそうと努力することで、人間的成長の礎となる。			
■	技能表現的領域	基本的なスキルを習得することで、教員採用実技試験等に対応できる。			
授業計画(全体)					
<p>各授業テーマに沿って段階的に実技指導を行うが、動きとシステム攻防の理解度を深めるために視聴覚教材も用いる。受講生の個性を活かせるような役割を与え、各ポジションの連係プレイを確立して試合を戦術を用いて行うようにする。よって、グループ編成し役割をローテーションしながら総合的な理解を深める。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 1、競技の歴史説明 2、競技特性と攻防の概略説明			⑨	[テーマ] トランディション1(攻防一体) [内容] zone defenseからの速攻方法とその役割分担
②	[テーマ] 攻撃の個人スキル [内容] 1、制限区域内のシュート 2、制限区域外のシュート 3、3点シュート 4、ピボットとドライブの方法 5、パスの方法			⑩	[テーマ] トランディション2(攻防一体) [内容] man to man defenseからの速攻方法とその役割分担
③	[テーマ] 防御の個人スキル [内容] 1、制限区域内の防御 2、制限区域外の防御 3、ピボットやドライブに対する防御			⑪	[テーマ] 試合形式による展開1 [内容] 1、zone defenseでのトランディションを中心とした試合 2、man to man defenseでのトランディションを中心とした試合
④	[テーマ] 集団スキルの攻防(1) [内容] 1、1on1の攻防 2、2on1の攻防 3、3on2の攻防 4、3on3の攻防			⑫	[テーマ] 試合形式による展開2 [内容] 1、審判法と記録方法 2、戦術を含む展開方法 3、戦術的総合試合
⑤	[テーマ] 集団スキルの攻防(2) [内容] 1、4on3の攻防 2、4on4の攻防			⑬	[テーマ] 試合形式による展開3 [内容] 1、コーチの立場からの戦術(タイムアウト) 2、残時間と点差による戦術の展開 3、5分試合を題材にした逆転方法と勝ち試合の制し方法
⑥	[テーマ] ポジション毎の攻防 [内容] 1、ガードポジションの攻防 2、フォワードポジションの攻防 3、センターポジションの攻防			⑭	[テーマ] 試合形式による展開4 [内容] 1、10分試合による総合的な展開とベンチワーク 2、規範的な展開の映像による学習
⑦	[テーマ] 集団スキルの攻防(3) [内容] 1、3on3(G,F,Cポジションから)の攻防 2、4on4(2G,F,Cから)の攻防			⑮	[テーマ] 試合形式による展開5 [内容] 10分×2回の試合による総合的な展開と運営
⑧	[テーマ] 集団スキルの攻防(4) [内容] 1、5on4(zone defense) 2、5on5(man to man defense) 3、5on5(zone defense)			⑯	[テーマ] テスト [内容] 1、基本技術(ドリブル、シュート)のスキルテスト 2、競技特性の理解度と習熟度
成績評価方法(方針)					
<p>成績は、スキルテストや理解度、習熟度から評価する。同時に授業内での協力的な貢献度や授業態度についても判断の材料とする。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。</p>					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)
		認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技				80	
授業態度				20(減点アリ)	
出席				欠格条件	
関連科目					
教科書				参考書	
連絡先	研究室:A棟4階410室 オフィスアワー:木曜日 10:00~12:00				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	ハンドボール Handball(P.A.)			担当教員	桑原 康平
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
本授業では、ハンドボールの基本的な技術・戦術を身に付けることを中心に展開し、その中でハンドボールの特性や歴史、ルールや国際的なトレンドについても触れていく。					
授業の一般目標					
ハンドボールにおける基本的な技術・戦術を身に付ける。 実際の試合において適切な状況判断ができるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	ハンドボールの基本的な技術・戦術について理解する。			
■	情意的領域	ハンドボールの構造的特性を理解し、仲間と協力してゲームに参加することができる。			
■	技能表現的領域	ハンドボールの個人技術(主にシュートとフェイント)と個人戦術(主にシュートとフェイント)を身に付ける。			
授業計画(全体)					
ハンドボールの個人技術・戦術を習得することから始め、次第にそれらの技術・戦術をグループやチームの中で応用できるよう展開する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業概要説明、ハンドボールの概要説明、グループ分け			⑨	[テーマ] 数的優位の攻め方① [内容] 数的優位の際の攻撃理論(パラレル・クロス) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム
②	[テーマ] ボールに慣れる [内容] 集団行動(整列の仕方)、ボールハンドリング、各種シュートの説明・実践、パスの説明・実践、基本的なルールの説明			⑩	[テーマ] 数的優位の攻め方② [内容] 数的優位の際の攻撃理論(パラレル・クロス・スクリーン) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム
③	[テーマ] シュート [内容] ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュート 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】			⑪	[テーマ] 数的優位の攻め方③ [内容] 数的優位の際の攻撃(パラレル・クロス・スクリーン・スライド) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム
④	[テーマ] ハンドボールの映像を視聴する [内容] 各年代別カテゴリーの試合映像を視聴、戦術・技術・その他についての説明			⑫	[テーマ] ゲーム① [内容] リーグ戦を行う
⑤	[テーマ] ポジション別シュート [内容] サイドシュート、ポストシュートの説明、実践 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム			⑬	[テーマ] ゲーム② [内容] リーグ戦を行う
⑥	[テーマ] フェイント① [内容] フェイントのステップ(片脚着地) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム			⑭	[テーマ] スキルテスト [内容] 個人技術の実技テストを行う
⑦	[テーマ] フェイント② [内容] フェイントのステップ(両脚着地) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム			⑮	[テーマ] ハンドボール全般に関する筆記テスト [内容] ハンドボールの理論、ルール、歴史について筆記テストを行う
⑧	[テーマ] 1対1の攻め方と守り方 [内容] スペースの攻め方と身体接触の仕方 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム			⑯	[テーマ] まとめ [内容] まとめ
成績評価方法(方針)					
授業に対する関心・意欲・態度等は平常点とし、評価に加味する(50%)。また、スキルテスト(30%)、筆記テスト(20%)を行い、これらの結果を総合して評価を行う。出席は欠格条件とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					20%
授業内レポート	○				
授業外レポート					
演習・実技				◎	30%
授業態度			◎		50%
出席					
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
欠席が4回以上になると評価の対象から外れます。 公式試合、大会参加(練習試合や合宿は不可)による出席回数不足については、別途課題を提示することがあります。ただし、いかなる理由においても開講回数2/3以上の出席を満たしていない場合は、評価の対象から外れます。なお、実技技術習得の観点から、授業に長期間参加できない(ケガ、病気等による)ことが予想される者は履修を控えてください。(治療後に履修するようにしてください。) その他、諸注意は初回のオリエンテーションの中で行います。					
関連科目					
教科書				参考書	基本が身につくハンドボール練習メニュー200
連絡先	第5体育館2階 桑原研究室				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	柔道 Judo (P.A.)			担当教員	仲田直樹・南條充寿
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
本授業は、柔道に必要な基本動作(礼法、姿勢、進退動作、組み方、受身)と対人運動の技能(投技、固技)を実技を通じて解説する。					
授業の一般目標					
基本動作(礼法、姿勢、進退動作、組み方、受身)を習得した後に、投技技能、固技技能の習得に取り組む。 技能の習得を通じて柔道の本質である「精力善用」「自他共栄」の精神を理解する。 手技・腰技・足技の中から1つずつ習得する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	日本傳講道館柔道の概要(創始の歴史、目的など)について説明できる。国際柔道連盟試合審判規定に基づいて柔道の試合の勝敗が理解できる。				
■ 情意的領域	伝統的な行動の仕方に留意して、お互いを尊重することができる。				
■ 技能表現的領域	中学校、高等学校において柔道の授業を行うことができる技能を身につける。				
授業計画(全体)					
本授業は基本動作の解説のあと、投技の習得においては「五教の技」に基づき、その理合(相手を投げるための要素→崩し・作り・掛け)を解説しながら段階を踏んで展開していく。それぞれの技術は、かかり練習、約束練習をもって正確さを追求し、受身においては試験を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の流れ、評価のめやす、柔道の概要、道場内でのルールなどの説明を行う。			⑨	[テーマ] 投技技能の習得③～乱取練習 [内容] 大腰の紹介。体捌きの中の前回り捌きについて解説していく。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。
②	[テーマ] 受身の習得 [内容] 柔道の受身を紹介し、後受身、横受身、前回受身について解説していく。			⑩	[テーマ] 投技技能の習得④～乱取練習 [内容] 体落の紹介。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
③	[テーマ] 柔道衣の着衣～基本動作 [内容] 柔道衣の各部位の名称や実際の着方について説明する。礼法(立礼、座礼)、基本姿勢、進退動作、組み方を解説する。			⑪	[テーマ] 投技技能の習得⑤～乱取練習 [内容] 大外刈と大内刈の紹介。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
④	[テーマ] 固技技能の習得① [内容] 抑込技の基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。			⑫	[テーマ] 投技技能の習得⑥～乱取練習 [内容] 背負投の紹介。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
⑤	[テーマ] 固技技能の習得② [内容] 関節技基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。			⑬	[テーマ] 投技技能の習得⑦～乱取練習 [内容] 巴投の紹介。捨身技の理論を解説していく。約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。
⑥	[テーマ] 固技技能の習得③ [内容] 絞技の基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。			⑭	[テーマ] 乱取練習 [内容] これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を数多く行う。
⑦	[テーマ] 投技技能の習得① [内容] 投技の理論を解説し、習得の方法について説明する。出足払の紹介。			⑮	[テーマ] 柔道の審判法 [内容] オリンピックや世界選手権大会などで用いられている国際柔道連盟試合審判規定のうち、技の評価や罰則など基本的な部分を解説していく。
⑧	[テーマ] 投技技能の習得② [内容] 膝車の紹介。投技における体捌きの重要性について解説する。			⑯	[テーマ] 実技試験 [内容] 前回受身(左右)のテストを行う。
成績評価方法(方針)					
実技試験を用いて評価する。ただし、出席回数が2/3以下の場合は成績評価対象外とする。また、基本動作の未習得による危険性を考慮して、いかなる理由であろうと初回から3回連続の欠席者においてはその後の履修を許可しないこととする。大会等による欠席、怪我による見学も出席とは認めない。事故の多い競技特性から、最低2/3以上、道衣を着て受講したことで単位認定の対象者となることを理解していただきたい。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	50%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席				◎	50%
関連科目	種目別コーチング演習(柔道)Ⅰ・Ⅱ				
教科書				参考書	柔道パーフェクトマスター(新星出版社)
連絡先	仲田研究室:第5体育館3F34				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	剣道 Kendo(P.A.)			担当教員	齋藤浩二
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
剣道の基本動作と一本打ちの技の習得に重点をおいて行う。「技」の習得は、代表的な技のみに留めて、互格稽古および簡易試合ができるまで展開する。					
授業の一般目標					
剣道の基礎的な動作を身に付け、基本となる打ち方を理解して、面・小手・胴を打突できるようになる。日本の伝統的な行動様式や剣道具の着装・外し方の作法などが理解でき、身に付けることができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	剣道の試合の仕方、技の種類、竹刀・剣道具の名称を説明できる。			
■	情意的領域	竹刀を持ち、相手と打ち合うことの楽しさを味わうことができる。			
■	技能表現的領域	伝統的な行動や礼儀作法が理解でき、基本動作が身に付けることができる。			
授業計画(全体)					
基本動作と打突の仕方・打たせ方を身に付けてから、徐々に剣道具を着装する。その上で、一本打ちの技を重点的に取り組み、いくつかの技を習得して稽古へと展開していく。互格稽古ができるようになったら、簡易な試合、さらに団体形式の試合を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、礼法 [内容] 授業の内容の説明と剣道についての概要、礼法(正座・座礼)の指導			⑨	[テーマ] 切り返しの完成、払い技の習得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し(完成)、一本打ちの技、払い面、約束練習、互格稽古
②	[テーマ] 基本動作の習得 [内容] 竹刀の名称、組み立て方の説明、基本動作としての礼法(正座、座礼、立礼)、構え方の指導			⑩	[テーマ] 連続技(二段技)の習得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し、一本打ちの技、払い技の復習、小手一面、小手一胴、約束練習、互格稽古
③	[テーマ] 基本動作から打突動作への展開 [内容] 足さばき、振り方(上下・正面)、稽古時の礼法の指導			⑪	[テーマ] 引き技の習得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)切り返し、一本打ちの技、二段技の復習、つばぜり合い、引き面、引き胴、約束練習、互格稽古
④	[テーマ] 剣道具(垂・胴)の着装、打突の仕方・打たせ方の導入 [内容] 前回の復習(足さばき・振り方)、剣道具(垂・胴)の着装、打ってみる			⑫	[テーマ] 技の練習、試合への導入 [内容] 試合規則の説明、復習(素振り)、切り返し、一本打ちの技「攻め→反応する→打突」のパターンによる練習、約束練習(これまで練習した技を組み合わせる)、互格稽古(試合のように実施する)
⑤	[テーマ] 打突の仕方、打たせ方の習得 [内容] 復習(素振り)、打ってみる、踏み込む足の練習、打突の仕方(面)の指導			⑬	[テーマ] 試合への導入 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、試合の体験
⑥	[テーマ] 剣道具(面・小手)の着装、打突の仕方・打たせ方(面)の導入 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち)、剣道具(面・小手)の着装、部位(面・胴・小手)を打ってみる、送り足による面打ち、踏み込みによる面打ち			⑭	[テーマ] 簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合を体験
⑦	[テーマ] 打突の仕方(面・胴・小手)の習得 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち、送り足による(面・胴・小手)、踏み込み足による(面・胴・小手)、約束練習			⑮	[テーマ] 簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合
⑧	[テーマ] 一本打ちの技の練習、切り返しの導入、稽古への導入 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち)、切り返し一回、一本打ちの技(面・胴・小手)の練習、約束練習、稽古			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 素振り、切り返し、面打ち、胴打ち、小手一面打ち
成績評価方法(方針)					
実技試験(70%)、授業時の実技評価(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。ただし、出席回数が2/3以下の場合は、成績評価対象外とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	70%
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート					評価対象外
演習・実技			○		30%
授業態度					加点
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
授業ではあるが、剣道は伝統的な行動を重視するため、礼儀作法や行動の仕方については厳しく指導します。必要な用具として、竹刀と手拭いを準備してください。					
関連科目					
教科書	特に指定しない。			参考書	全日本剣道連盟編『剣道指導要領』
連絡先	齋藤研究室:第三体育館3階剣道場 オフィシアワー:木曜日 11:00~12:30				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	ダンス I			担当教員	山梨 雅枝
	Dance I (P.A.)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
<p>毎回、バーを使いクラシックバレエの基本的な動きを行う。また、バーの動きでは、柔軟性やバランス能力、細かいステップなどを習得していく。その後、フロアの動きでは、ジャンプや回転を中心に実施する。これらの動きは、全て音楽に合わせて行い、動きの技だけでなく、音感を育むことも重視する。</p>					
授業の一般目標					
<p>クラシックバレエのバーを使った動きは、約350年の歴史の中で体系化されたトレーニング方法であり、体幹や柔軟性を育むのに大変有効である。そのため、様々なスポーツの基礎的なトレーニングにも成り得る。クラシックバレエの基本的な動きを繰り返し実践することで、自己の身体と向き合いながら、体幹や柔軟性、調整力を高めることが目標である。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	自己の身体に気づくことができる。			
■	情意的領域	合理的な身体の動かし方について理解することができる。			
■	技能表現的領域	質の異なる様々な動きに対応することができる。			
授業計画(全体)					
<p>毎時間、クラシックバレエの基本的な動きを実施し、授業を重ねる毎にレベルを上げていく。その際、4拍子や3拍子の動きにも対応できるよう、音感も鍛えながら実施する。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法についての説明。ダンス作品DVD鑑賞。</p>			⑨	<p>[テーマ] ステップ① [内容] フロアで4種類以上のステップで構成された動きを行う。</p>
②	<p>[テーマ] 足の動きと手の動き [内容] 5つの足のポジションと4つの手の動きを理解する。</p>			⑩	<p>[テーマ] ステップ② [内容] フロアで5種類以上のステップで構成された動きを行う。</p>
③	<p>[テーマ] 両手でバーにつかまて行う動き [内容] バーを両手で握り、床を踏む動きとバランスの動きを行う。</p>			⑪	<p>[テーマ] バランスとターン① [内容] フロアでバランスからターンを行う動きを行う。</p>
④	<p>[テーマ] 片手でバーにつかまる動き [内容] バランスをとりながら、床を踏む動きを行う。</p>			⑫	<p>[テーマ] ジャンプとターン① [内容] フロアでジャンプとターンの動きを行う。</p>
⑤	<p>[テーマ] バーを用いたジャンプの動き [内容] 床を踏んでからジャンプをするステップを行う。</p>			⑬	<p>[テーマ] ジャンプとターン② [内容] フロアでジャンプとターンの動きを行う。</p>
⑥	<p>[テーマ] バーを用いてバランスとジャンプの動き [内容] バーを用いて、バランスやジャンプを行う。</p>			⑭	<p>[テーマ] ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き① [内容] 13回目までに学んできた動きを、音楽に合わせて踊る。</p>
⑦	<p>[テーマ] バーを用いたターンの動き [内容] バーを用いて、ジャンプやバランス、ターンを行う。</p>			⑮	<p>[テーマ] ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き② [内容] 13回目までに学んできた動きを、音楽に合わせて踊る。</p>
⑧	<p>[テーマ] ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動き [内容] フロアで、ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動きを行う。</p>			⑯	<p>[テーマ] 試験 [内容] ステップとジャンプ、バランス、ターンの動きが組み込まれた作品を1人ずつ試験する。</p>
成績評価方法(方針)					
<p>実技試験で、授業内容の理解度を観る。また、受講態度、出席状況を総合的に評価する。しかし、出席回数が単位取得条件を満たしていても、授業内容が理解できていないと判断した場合、単位取得は認められない。また、他の受講者に悪影響と思われる行動や発言をしたと授業担当者が判断した場合、単位取得は認めない。</p>					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	30%
授業内レポート		○	○		5%
授業外レポート					
演習・実技				◎	30%
授業態度			◎	◎	15%
出席			◎		20%
関連科目	保健体育科教育論 III、ダンス II				
教科書	適宜資料を配布する。			参考書	・片岡康子『舞踊学講義』大修館,1991
連絡先	山梨研究室(第4体育館1F)				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	海浜実習 Activity & Swim Camp				担当教員	渡邊 泰典
	開講内容	学年・学期	1年・集中	授業方法		
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
海浜実習はプール実技の応用として、海浜を利用した水泳訓練及びマリンスポーツの体験等を主とした学外集中実技授業である。6月と7月にそれぞれ事前オリエンテーションを実施し、学外集中授業として現地にて8月下旬に3泊4日間の日程で開講する。						
授業の一般目標						
事前オリエンテーション、プール実技及び3泊4日の学外授業全日程に参加すること。実技ノルマである大遠泳(約3km・2時間)完泳を目指すこと。民宿・旅館での集団生活に必要なマナーを厳守すること。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	海浜活動に関わる基本的知識・技能と、活動上の留意点について説明することができる。				
■	情意的領域	自然の驚異にふれ、海で活動することの楽しさを知る。人間個人の能力の限界に挑戦し、達成感を得られる。参加実習生同士や上級生との親睦を深めることができる。				
■	技能表現的領域	連続2時間以上の泳力を身につけることができる。水泳以外のアクティビティを実践することができる。				
授業計画(全体)						
事前オリエンテーション、事前実技講習有り。本番の日程は8月の第4週頃に3泊4日の日程で実施予定である。宿泊施設は地元民宿と旅館を貸し切り。交通手段については貸し切りバス利用予定。事前申込み手続き有り。参加費用については約35,000円銀行振り込み(事前に掲示にて告知)。						
授業テーマとその内容						
1、事前作業 [テーマ] 海浜実習指導内容・知識事前確認 [内容] ①泳力チェック;同時開講の水泳授業により、事前に泳力を確認する。 ②海浜実習オリエンテーション(6月中旬ごろ);指定会場にて実習に関する説明会を実施する(実施場所については別途掲示する)。 ③事前実技講習(7月中旬ごろ);遠泳に必要な基本的知識と技能に関する説明会を実施する(実施場所については別途掲示する)。						
2、現地本番作業 [テーマ] 実地海浜訓練実技体験 [内容] <第1日目> 午前;大学出発、現地到着、 午後;開講式、入退水方法、点呼法、集団行動等の実技学習、 海浜での泳能力チェック、遠泳マナー習得 <第2日目> 全日;海浜救助法、およびマリンスポーツ体験(①スキャンピング、②シーカヤック体験、③スタンドアップパドルボード等) <第3日目> 全日;遠泳に向けた隊列泳練習(①小遠泳、②中遠泳 等) <第4日目> 午前;大遠泳、 午後;撤収作業、閉講式、 現地出発、本学到着、全行程終了・解散						
成績評価方法(方針)						
ノルマ;全日程参加(事前学内講習含)・全種目体験完了・大遠泳完泳						
成績評価方法(詳細)						
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)	
定期試験					①受講可能条件として、水泳実技履修者のうちで、6月末に実施される第1次水泳実技試験を受験していなければならない(合否は問わない)。	
授業内レポート					②水泳実技授業において、第1次水泳実技試験までの出席率が100%でなければ参加できない。	
授業外レポート					③海浜という自然環境の中での授業なので、危機的場面に遭遇することもあり、また、体育授業を想定した集団行動訓練も充分行うので、忍耐強く且つ積極的受講が要求される。さらに、民宿での集団生活が有る訳であり、規律正しい態度も要求される。	
演習・実技	◎	◎	◎	40		
授業態度	◎	◎	◎	10		
出席	◎	◎	◎	50		
関連科目	水泳、水上安全法(含実習)					
教科書	なし				参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室 渡邊泰典 (ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp)					

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スキー I			担当教員	高橋 弘彦 他
	Ski I (P.A.)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					
<p>各自のレベルにおけるスキーの基礎的理論、基礎技術及び指導法を修得させる。また、学外集中授業の運営形態を学ばせると共に集団生活を通して共同・協調の精神を養わせる。</p> <p>実習は2月下旬から3月上旬にかけて、3泊4日の日程で山形県蔵王温泉スキー場にて実施する。</p>					
授業の一般目標					
<p>修得技能は、初めてスキーを行う者でも全日本スキー連盟バッヂテスト3級を目標とする。スキー経験のある者については、より難易度の高い斜面の滑走が可能になるよう自己技能の向上に努める。</p>					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	各自のレベルにおける技術について説明できる。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	実習開始時よりも技能向上が認識できる。			
授業計画(全体)					
<p>技能レベル毎の班別講習を実施する。技能習得の効率を高めるため、原則として1班10名以内の班編成とする。</p> <p>ナイタースキーも実施する。</p> <p>※受講希望者数がホテルの収容人数を超えた場合は、抽選となる場合がある。また受講の優先は4月における履修登録者となる。</p>					
授業テーマとその内容					
<p>1. オリエンテーション 授業計画、指導内容、指導方法、日程、費用に関する説明を行う(11月中旬を予定)。 各自の技能評価用紙を提出させる。</p> <p>2. 実習</p> <p>①全体ミーティング 開講式に先立ち、蔵王温泉スキー場の紹介、ホテルにおける生活、リフト券の取り扱い等に関する留意点を説明する。</p> <p>②開講式 各班の指導担当教員及び補助学生の紹介を行う。 ゲレンデにおけるマナーと傷害防止に関する説明を行う。</p> <p>③実技 技能レベルの近い数班が合同にて班分けを行い、正式の講習班を編成する。 講習班の決定後は、各班毎に実技講習を実施する。</p> <p>1) ブルーク: 押し開き、リズムカルな連続押し開き 2) ブルークボーゲン: 交互押し出し、浅まわりと深まわり 3) シュテムターン: 山開き、谷開き 4) パラレルターン(大回り): スキップディング、カービング 5) パラレルターン(小回り): スキップディング、カービング 6) 総合滑降: 雪質、斜度等の条件に適合した滑り 7) 制限滑降: ボールセットにより制限されたコース 8) 班別デモンストレーション</p> <p>④閉講式</p>					
成績評価方法(方針)					
<p>修得技能、授業参加態度および実習における生活全体を総合して評価する。</p>					
成績評価方法(詳細)					
到達目標				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>1. 必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。また、指定期日までに参加費の入金がない場合も参加は認められない。 2. オリエンテーションは11月を予定。 3. 実習期間中は、禁酒、禁煙となる。これに違反した場合は、履修放棄扱いとなる。 4. 実習費は、39000円程度の予定(宿泊、全食事、交通、保険、リフト)。レンタルスキーを借りる場合は、別途5500円程度(現地支払い)が必要となる。レンタルウェアの取り扱いはない。 5. 参加希望者が受入れ可能人数を超過した場合は、抽選になることもある。</p>
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技			◎	100%	
授業態度				欠格条件	
出席				欠格条件	
関連科目	スキー II (3年)				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	研究室:C棟3階 55-3002(研究室直通) hr-takahshi@sendai-u.ac.jp				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スケート			担当教員	川口鉄二 他
	Skating(P.A.)				
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
スケートに関する理論(歴史・滑走原理)及び基本技術(直進系・曲進系・転向系・停止系)を学習する。更に選択種目(フィギュアスケート、スピードスケート、アイスホッケー、インラインホッケー等)の基礎技能を身につけ、種目特性に応じた動く楽しさを体験する。					
授業の一般目標					
体育大学ならではのスケートの基本技術の学習を通して安全への配慮、マナー・エチケット及び用具の管理方法などを理解する。種目特有のできる楽しさを自らの身体知を通して学ぶことにより、体育授業及び競技、生涯スポーツの指導力へと結びつけることを狙いとする。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スケートの滑走原理、技術特性を理解し、説明できる。			
■	情意的領域	グループ学習を通して相互理解を深め、協力する態度を身につける。			
■	技能表現的領域	日本スケート連盟公認アレーンテストC級以上の技能を習得する。スピードスケート、アイスホッケーの競技会とその計画・運営、審判ができる。			
授業計画(全体)					
領域は希望と経験を考慮し、基礎、フィギュア、スピード、アイスホッケーの各コースに分かれて実習を行う。実習場所は、盛岡及び仙台のスケート場。基礎技能の確認の後、各コース毎の技能を習得し、最終的にC級、B級の相当の技能テストを行い、ゲームや発表会、競技会などでも楽しめる技能を身につけていく。					
授業テーマとその内容					
[テーマ] オリエンテーション [内容] 実習の概要、方法、達成課題及び評価等について					
[テーマ] スケートの基礎知識 [内容] 生涯スポーツとしての今日的課題。スケート種目とその基礎技能の構造、競技法、基本ルール、技の体系について。 [内容] 滑走技術の種類と位相構造を知る。 [内容] スケーティングの基礎、自然滑走と惰力滑走、自力滑走の練習。					
[テーマ] 曲進系、停止系 転向系滑走技術の習得 [内容] 両脚カーブ、フォアクロス、フォアスネークの練習。 [内容] イの字、ハの字ストップの練習。 [内容] フォアバック、バックフォア、モフォークターン、ジャンプターン					
[テーマ] コース別上位技術の習得 [内容] フィギュア、スピード、アイスホッケー独自の基本技術及び戦術を習得することにより、競技の基礎技能を身に付ける。ルールに基づく競技を実際に体験することにより、各競技特性の理解を深める。					
[テーマ] 技能テストによる達成度の確認・練習。 [内容] 各コースごとのテスト種目についての説明及び達成課題を目標とした練習。 [内容] 各コースごとのテスト種目に基づいた技能テスト。					
[テーマ] 学習技能に基づく競技、ゲーム、発表などの応用滑走。 [内容] 実習で身に付けた技能をもとに、ゲームや競技、発表、競技、及びレクリエーションを行い、運営を含めた楽しみ方を学ぶ。					
[テーマ] まとめ [内容] 実習全体の総括と内容の記録(日誌)、動感達成内容の記録・公開。					
成績評価方法(方針)					
実習時間の30%以上の欠席は不可とする。技能習得と授業態度を総合して評価する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技			○	◎	70%
授業態度		○			70%
出席					
①履修希望者は必ずオリエンテーションに参加し、実習参加登録が必要です。②宿泊を伴う場合は相応の経費がかかります。③防寒具(スキー系ウェア、帽子、手袋)を身に付け、けがの防止に留意すること。④地方(盛岡)と仙台市内、夏期と冬期の選択が可能です(アイスホッケーのみ)。⑤技能習得を優先目標に置くので、当たり外れの無いマイシューズでの参加を勧めます。					
関連科目					
教科書				参考書	アイススケーティングの基礎(DSK)
連絡先 A403川口					

3. 発展科目

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	社会福祉			担当教員	関矢・高橋																																											
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格																																											
	履修の方法	必修	単位数			2																																										
授業の概要 本講義は、社会福祉の様々な分野について各領域の意義や関連性を学ぶと共に、社会福祉専門職の役割について学ぶ。また、保育・教育・療育・保健・医療等との連携や、各制度と社会福祉制度との関連を学び、現状と課題を考察する。																																																
授業の一般目標 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する ・社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する ・社会福祉の制度や実施体系等について理解する ・社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する ・社会福祉の動向と課題について理解する																																																
授業の到達目標 <table border="1"> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td>認知的領域</td> <td>社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明できる</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td>情意的領域</td> <td>ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行えるようになる</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </table>						<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明できる	<input checked="" type="checkbox"/>	情意的領域	ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行えるようになる	<input type="checkbox"/>	技能表現的領域																																			
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明できる																																														
<input checked="" type="checkbox"/>	情意的領域	ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行えるようになる																																														
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域																																															
授業計画(全体) シラバスに基づいて講義を実施するが、学生は事前準備をして講義を受けることが授業全体の受講条件である。また、この講義の時期に自らの具体的な目標を明確にして各々の受験の準備に備えることも本講義の受講条件とする。																																																
授業計画(各回のテーマ等) <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業テーマとその内容</th> <th>回</th> <th>授業テーマとその内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>[テーマ] ガイダンス [内容] 本授業のねらいと全体の流れの説明を聞き理解する [授業外学習]</td> <td>⑨</td> <td>[テーマ] 社会福祉における相談援助 [内容] 相談援助の意義と原則について学ぶ [授業外学習]</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>[テーマ] 現代社会における社会福祉の意義 [内容] 社会福祉の理念と概念を理解する [授業外学習]</td> <td>⑩</td> <td>[テーマ] 社会福祉における相談援助 [内容] 相談援助の方法と技術を学ぶ [授業外学習]</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>[テーマ] 現代社会における社会福祉の歴史の変遷 [内容] 社会福祉の歴史の変遷を理解する [授業外学習]</td> <td>⑪</td> <td>[テーマ] 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み [内容] 情報提供と第三者評価の方法と実際を学ぶ [授業外学習]</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>[テーマ] 社会福祉と児童家庭福祉 [内容] 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉を理解する [授業外学習]</td> <td>⑫</td> <td>[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 少子高齢化社会への対応の実際と課題を考察する [授業外学習]</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>[テーマ] 社会福祉と児童家庭福祉 [内容] 児童の人権擁護と社会福祉のかかわりを理解する [授業外学習]</td> <td>⑬</td> <td>[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 在宅福祉・地域福祉の推進の現状と課題を考察する [授業外学習]</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>[テーマ] 社会福祉の制度と実施体系 [内容] 社会福祉の制度と法体系を学ぶ [授業外学習]</td> <td>⑭</td> <td>[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワークを学ぶ [授業外学習]</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>[テーマ] 社会福祉の実施体系 [内容] 社会福祉行政と実施機関とのかかわりを理解する [授業外学習]</td> <td>⑮</td> <td>[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 諸外国の動向を資料を基に考察する [授業外学習]</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>[テーマ] 社会福祉の実施体系 [内容] 社会福祉の専門職・実施者の現状を学ぶ [授業外学習]</td> <td>⑯</td> <td>[テーマ] [内容] [授業外学習]</td> </tr> </tbody> </table>						回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容	①	[テーマ] ガイダンス [内容] 本授業のねらいと全体の流れの説明を聞き理解する [授業外学習]	⑨	[テーマ] 社会福祉における相談援助 [内容] 相談援助の意義と原則について学ぶ [授業外学習]	②	[テーマ] 現代社会における社会福祉の意義 [内容] 社会福祉の理念と概念を理解する [授業外学習]	⑩	[テーマ] 社会福祉における相談援助 [内容] 相談援助の方法と技術を学ぶ [授業外学習]	③	[テーマ] 現代社会における社会福祉の歴史の変遷 [内容] 社会福祉の歴史の変遷を理解する [授業外学習]	⑪	[テーマ] 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み [内容] 情報提供と第三者評価の方法と実際を学ぶ [授業外学習]	④	[テーマ] 社会福祉と児童家庭福祉 [内容] 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉を理解する [授業外学習]	⑫	[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 少子高齢化社会への対応の実際と課題を考察する [授業外学習]	⑤	[テーマ] 社会福祉と児童家庭福祉 [内容] 児童の人権擁護と社会福祉のかかわりを理解する [授業外学習]	⑬	[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 在宅福祉・地域福祉の推進の現状と課題を考察する [授業外学習]	⑥	[テーマ] 社会福祉の制度と実施体系 [内容] 社会福祉の制度と法体系を学ぶ [授業外学習]	⑭	[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワークを学ぶ [授業外学習]	⑦	[テーマ] 社会福祉の実施体系 [内容] 社会福祉行政と実施機関とのかかわりを理解する [授業外学習]	⑮	[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 諸外国の動向を資料を基に考察する [授業外学習]	⑧	[テーマ] 社会福祉の実施体系 [内容] 社会福祉の専門職・実施者の現状を学ぶ [授業外学習]	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]							
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容																																													
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 本授業のねらいと全体の流れの説明を聞き理解する [授業外学習]	⑨	[テーマ] 社会福祉における相談援助 [内容] 相談援助の意義と原則について学ぶ [授業外学習]																																													
②	[テーマ] 現代社会における社会福祉の意義 [内容] 社会福祉の理念と概念を理解する [授業外学習]	⑩	[テーマ] 社会福祉における相談援助 [内容] 相談援助の方法と技術を学ぶ [授業外学習]																																													
③	[テーマ] 現代社会における社会福祉の歴史の変遷 [内容] 社会福祉の歴史の変遷を理解する [授業外学習]	⑪	[テーマ] 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み [内容] 情報提供と第三者評価の方法と実際を学ぶ [授業外学習]																																													
④	[テーマ] 社会福祉と児童家庭福祉 [内容] 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉を理解する [授業外学習]	⑫	[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 少子高齢化社会への対応の実際と課題を考察する [授業外学習]																																													
⑤	[テーマ] 社会福祉と児童家庭福祉 [内容] 児童の人権擁護と社会福祉のかかわりを理解する [授業外学習]	⑬	[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 在宅福祉・地域福祉の推進の現状と課題を考察する [授業外学習]																																													
⑥	[テーマ] 社会福祉の制度と実施体系 [内容] 社会福祉の制度と法体系を学ぶ [授業外学習]	⑭	[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワークを学ぶ [授業外学習]																																													
⑦	[テーマ] 社会福祉の実施体系 [内容] 社会福祉行政と実施機関とのかかわりを理解する [授業外学習]	⑮	[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 諸外国の動向を資料を基に考察する [授業外学習]																																													
⑧	[テーマ] 社会福祉の実施体系 [内容] 社会福祉の専門職・実施者の現状を学ぶ [授業外学習]	⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]																																													
成績評価方法(方針) 授業内レポート25%・授業態度25%・評価テスト50%																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">成績評価方法(詳細)</th> <th colspan="2">履修上の注意(受講学生に望むこと)</th> </tr> <tr> <th>到達目標</th> <th>認知的領域</th> <th>情意的領域</th> <th>技能表現的領域</th> <th>評価割合(%)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td>50%</td> <td rowspan="6"> ・大学設置基準において90分の講義に対し、予習復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。 ・常に、日常生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。 学問は、観念的な知識や現実離れた理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的実践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。 ・20分以上の遅刻は、欠席とする。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。 ・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。 </td> </tr> <tr> <td>授業内レポート</td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業外レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演習・実技</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>出席</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td>欠格条件</td> </tr> </tbody> </table>						成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)		定期試験	◎			50%	・大学設置基準において90分の講義に対し、予習復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。 ・常に、日常生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。 学問は、観念的な知識や現実離れた理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的実践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。 ・20分以上の遅刻は、欠席とする。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。 ・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。	授業内レポート		◎		10%	授業外レポート					演習・実技					授業態度			◎	40%	出席			◎	欠格条件
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)																																												
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)																																												
定期試験	◎			50%	・大学設置基準において90分の講義に対し、予習復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。 ・常に、日常生活や身近な話題あるいは時事問題と関連づけながら学ぶこと。 学問は、観念的な知識や現実離れた理想ではなく、絶えず現実の中に、そして現実と共にある。このような「学問的実践」によって、卒業後の人生や職業の中で、大学において学んだことを生かせるようになる。 ・20分以上の遅刻は、欠席とする。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。 ・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後。																																											
授業内レポート		◎		10%																																												
授業外レポート																																																
演習・実技																																																
授業態度			◎	40%																																												
出席			◎	欠格条件																																												
関連科目	社会福祉概論I,社会福祉概論II,社会保障論、公的扶助論、老人福祉論、社会福祉援助技術論I、社会福祉援助技術論II、障害者福祉論、児童福祉論、福祉行政と福祉計画、更生保護制度論、就労支援論、保健医療論、社会福祉施設経営論																																															
教科書	オリエンテーション時に指示する			参考書	オリエンテーション時に指示する																																											
連絡先	高橋 亮研究室E棟2階 関矢 貴秋研究室F棟2階																																															

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名		体育原理 Philosophy of Physical Education			担当教員	高橋 徹
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
<p>本授業では、体育哲学・スポーツ哲学をベースにした講義を行います。特に、体育とスポーツの本質やありかたについて体系的に解説しながら、体育教師として理解しておくべき体育やスポーツに対する基本的な考え方を紹介します。</p>						
授業の一般目標						
<p>体育教師の専門である体育ないしは教科体育の本質や基盤、そして教育としての可能性等、あるいはそれに関連する諸知識について知り、学校という教育機関において教科体育を担当する教育専門職者としての基本的な考え方を理解する。</p>						
授業の到達目標						
■	認知的領域	体育の理想的なありかたを、自分の力で考えることができる。				
■	情意的領域	よい体育を追求しようとする意識をもつことができる。				
■	技能表現的領域	体育を人文主義の方向で考えることができるようになる。				
授業計画(全体)						
<p>一貫して「よい体育の追求」という問題意識に寄り添いながら講義を進めていきます。この講義は、大きく次の4点から構成されます。①体育の本質、②体育と体育教師、③体育とスポーツの可能性、④体育のありかた—めざすべき道—</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ] 講義「体育原理」についてのオリエンテーション [内容] 講義「体育原理」の輪郭について解説し、受講学生との合意形成を図る。 [授業外学習] 教科書「はじめに」と「序章」を読んでください。</p>			⑨	<p>[テーマ] スポーツの定義的特徴① [内容] スポーツの特徴である遊戯性について解説する。 [授業外学習] 教科書「第13章」を読んでください。</p>	
②	<p>[テーマ] 体育への問い [内容] 体育を“教わる立場”から体育を“教える立場”への転換について解説する。 [授業外学習] 教科書「第1章」を読んでください。</p>			⑩	<p>[テーマ] スポーツの定義的特徴② [内容] スポーツの特徴である競争性について解説する。 [授業外学習] 教科書「第14章」を読んでください。</p>	
③	<p>[テーマ] 体育とは何か① [内容] 前提としての歴史認識について解説する。 [授業外学習] 教科書「第2章」を読んでください。</p>			⑪	<p>[テーマ] スポーツの概念と文化運動 [内容] スポーツの概念構成と現代スポーツへの視界について解説する。 [授業外学習] 教科書「第16章」を読んでください。</p>	
④	<p>[テーマ] 体育とは何か② [内容] 体育の概念とその構成について解説する。 [授業外学習] 教科書「第3章」を読んでください。</p>			⑫	<p>[テーマ] スポーツと現代社会 [内容] 生涯スポーツと生涯教育との関係性について解説する。 [授業外学習] 教科書「第17章」を読んでください。</p>	
⑤	<p>[テーマ] 体育と体育教師 [内容] 体育教師の負の遺産とそこから脱却するための方途について解説する。 [授業外学習] 教科書「第4章」を読んでください。</p>			⑬	<p>[テーマ] 体育を規定する目的論 [内容] 体育論の類型とその可能性について解説する。 [授業外学習] 教科書「第19章」を読んでください。</p>	
⑥	<p>[テーマ] 専門職としての体育教師 [内容] 体育教師の代替不能な職能について解説する。 [授業外学習] 教科書「第5章」を読んでください。</p>			⑭	<p>[テーマ] 体育の存在意義と学校体育 [内容] 体育における最大の配慮の対象とは何かを解説する。 [授業外学習] 教科書「第21章」を読んでください。</p>	
⑦	<p>[テーマ] 体育の対象としての人間 [内容] 体育哲学とその人間学的基点について解説する。 [授業外学習] 教科書「第11章」を読んでください。</p>			⑮	<p>[テーマ] 体育と人文主義 [内容] 体育における人間形成について解説する。 [授業外学習] 教科書「第22章」を読んでください。</p>	
⑧	<p>[テーマ] 体育における教材構成の基点 [内容] 身体運動文化とスポーツとの関係性について解説する。 [授業外学習] 教科書「第12章」を読んでください。</p>			⑯	<p>[試験] 論述形式での試験を実施 [内容] 講義内容を踏まえつつも、できるだけ自分の「言葉」で論述してください。 [授業外学習] 試験勉強</p>	
成績評価方法(方針)						
<p>基本的には、試験(70%)、課題(30%)とします。試験は学期末に実施し、課題は全て授業内レポートとして行います。レポートの評価については内容はもちろんのこと、適切な表現が用いられているかどうかとも評価の対象とします。なお、授業中の発問等に対する解答提示、あるいは積極的な授業協力等には、成績評価において加点します。他人に感わされることなく、よい成績がとれるように頑張りましょう。</p>						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>1. 受講は、指定教科書の持参を条件とします。教科書を持たない学生は受講できません。なお、教科書は「修正第3版発行」とします。 2. 講義中は静寂を保つこと。静寂を維持できない方は受講をやめてください。 3. 本講義においては、諸知識の記憶も大切ですが、それを用いて考えることが重要です。受け身の姿勢ではない積極的な受講態度を求めます。 4. 詳細については第一回目の講義で説明します。</p>
定期試験		◎	○	○	70%	
授業内レポート		◎	○		30%	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技					評価対象外	
授業態度		○	◎		加点対象	
出席					欠格条件	
関連科目	教員免許状(保健体育)取得関連諸科目					
教科書	大橋道雄編(2011) 体育哲学原論, 不昧堂※「修正第3版」			参考書	佐藤臣彦(1993) 身体教育を哲学する, 北樹出版	
連絡先	G棟2階208研究室(高橋徹研究室)					

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スポーツ医学概論			担当教員	橋本 実
	Introduction to Sports Medicine (L .)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。					
授業の一般目標					
スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する。			
■	情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するように努力する。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学習] 当日配布するプリントを参照すること			⑨	[テーマ] 体液 [内容] スポーツに関連する体液の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
②	[テーマ] スポーツ医学の基礎 [内容] スポーツ医学の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑩	[テーマ] 細胞 [内容] スポーツに関連する細胞の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
③	[テーマ] ドーピング① [内容] ドーピングに関連する知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑪	[テーマ] 免疫 [内容] スポーツに関連する免疫の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
④	[テーマ] ドーピング② [内容] ドーピングに関連する防止策や実態について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑫	[テーマ] 赤血球 [内容] スポーツに関連する赤血球の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 呼吸器 [内容] スポーツに関連する呼吸器の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑬	[テーマ] 高地トレーニングと貧血 [内容] 高地トレーニングと貧血に関連する知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 循環器 [内容] スポーツに関連する循環器の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑭	[テーマ] 骨格筋 [内容] スポーツに関連する骨格筋の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑦	[テーマ] 遺伝 [内容] スポーツに関連する遺伝の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
成績評価方法(方針)					
基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	授業中は下記の項目を厳守すること。
定期試験	◎			100%	1. スマホ、携帯電話の電源を切る。
授業内レポート					2. スマホでの撮影は留学生以外は禁止。
授業外レポート					3. 無断で教室を離れない。
演習・実技					4. 挨拶をする。
授業態度					5. 帽子はかぶらない。
出席				欠格条件	6. 私語は厳禁。
関連科目					講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。
教科書	スポーツ医学概論 講義ノート			参考書	特になし
連絡先	研究室:F棟2階 オフィスアワー:月曜日 14:20~15:50				

4. 応用科目

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	教職論C			担当教員	柴田千賀子/高橋 亮
	Introduction to Teaching Profession C				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
本授業は、保育者・幼稚園教諭に求められる役割、資質、使命について理解を深める学習を展開する。前半は、保育者・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割や倫理について認識を深める。後半は、保育者・幼稚園教諭としての基本的な資質、責任、知識、技能、考え方を実践的模擬学習を実施する。					
授業の一般目標					
本科目のねらいは、教職とはどんな仕事か、その基本的な性格や社会的使命などについて実践活動を通して理解を深めることである。授業形態は、アクティブラーニング(学生主体型授業)で実施する。また、ディスカッションなどを通して教職に関する理解を深め、教職への意欲を明確なものにすることが本科の目的である。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解する。			
■	情意的領域	教職への希望を実現するための様々な学習に意欲的に取り組む。			
■	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。			
授業計画(全体)					
教職に就くために基盤となる教職の全体像や学習計画の立て方などについての学習、教職にかかる様々な制度を学び、教員としての資質・力量などについて、それぞれの担当者が、講義する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション:幼稚園教育・保育とは?教職を目指す動機は? [内容] 幼稚園教育・保育とは何か、教職を目指す動機を問うことを中心にオリエンテーションを進める。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑨	[テーマ] 教師に求められるもの・好奇心を伸ばし想像力と表現力を高める方法 [内容] . 自分の本当の夢を語り、どのようにすればそれを達成できるかについて具現化する方法を探索する。 [授業外学習]本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること
②	[テーマ]幼稚園教諭・保育士になるまでのステップ [内容] 幼稚園教諭・保育士になるまでのステップを具体的に解説する。 [授業外学習]本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑩	[テーマ] 求められる理想の教師像(子ども・親・採用時に求められる教師像等) [内容] 求められる教師像について探索し、伝記から読み解き自分にあてはめる活動を考える。 [授業外学習]本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること
③	[テーマ] 幼稚園教諭・保育士採用試験の実際 [内容] 幼稚園教諭・保育士採用試験の実際について解説する。 [授業外学習]本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑪	[テーマ] 教員の教育力と研究力:事例・実践研究 [内容] 教育力と研究力について自ら調べ紹介する。 [授業外学習]本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること
④	[テーマ] 服務と身分保障(勤務時間、休憩と休息、休日と休暇等) [内容] 幼稚園教諭の勤務時間、休憩と休息、休日と休暇等について具体的に解説する。 [授業外学習]本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑫	[テーマ] 教育力の実践と評価 [内容] . 教育の実践を評価する方法を検討し、実際に自らを評価してみる。 [授業外学習]本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること
⑤	[テーマ] 服務と身分保障(職務命令の要件と違反、分限と懲戒等) [内容]教職における 職務命令の要件と違反、分限と懲戒等について解説する。 [授業外学習]本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑬	[テーマ] 探求力の実践と評価 [内容] 探求力をつけるために必要な事を考えて、その事を評価する手段を検討する。 [授業外学習]本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること
⑥	[テーマ] 仕事の内容と実際 [内容] 教職の仕事の内容と実際について具体的に解説する。 [授業外学習]本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑭	[テーマ] 創造力と即興力の実践と評価 [内容] 想像力と即興力について自らその場で考えた事柄を表現し、相共に感動するツボについて確認し評価する。 [授業外学習]本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること
⑦	[テーマ] 幼稚園教諭・保育士の職務と役割・教える者としての資質 [内容] 幼稚園教諭・保育士の職務と役割・教える者としての資質について解説する。 [授業外学習]本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑮	[テーマ] まとめと評価 [内容] これまでの学修のまとめと評価をする。 [授業外学習]これまでの学修をまとめておくこと
⑧	[テーマ] 教師に求められるもの・教師力を伸ばし人間力を磨く方法 [内容] 自分の理想の教師像を探索し、具体的にどのようにすればそうなるか考え意見を交換する。 [授業外学習]本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] 筆記試験を実施する。 [授業外学習]これまでの学修をまとめておくこと
成績評価方法(方針)					
筆記試験の結果(100%)に授業態度を勘案して評価する。授業時数の2/3以上の出席を必要とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		◎	95%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度			○		5%
出席					欠格事項
関連科目	他の教職関連科目				
教科書	「必修教職六法」(協同出版)			参考書	「学習指導要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
連絡先					

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	音楽表現 I			担当教員	岩淵 摂子
	Music Expression I				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
保育や教育の場における音楽表現は、遊びを豊かに発展させたり、子どもの内面を表出したり、活動の様々な場面で展開されています。子どもとともに豊かな音楽表現を行うためには、保育者・教育者自身が感性豊かであり、音楽の基礎知識や技能を身につけていることが求められます。そのため、基本的な楽典を理解し、手遊びやわらべうた、季節の歌を数多く歌うことや、ピアノ伴奏による弾き歌いを主な内容とします。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽典の基礎的知識を理解し、歌うことによって読譜力を高める。 ・基本的なピアノ奏法を習得し、子どもの歌の弾き歌いができるようにする。コードについて理解し、コード譜を見て伴奏ができるようにする。 ・手遊び、わらべうた、季節の歌を歌い、歌の引き出しを増やす。 					
授業の到達目標					
<input type="checkbox"/>	認知的領域				
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	ピアノ伴奏による弾き歌いの能力を高める。手遊び、わらべうた、季節の歌を数多く歌えるようにする。			
授業計画(全体)					
手遊びやわらべうたを毎回一つ覚える。楽典の基礎知識を段階的に身につける。歌唱力、ピアノ演奏力を高め、子どもの歌の弾き歌いができるようにする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、階名、拍と拍子、音符と休符 [内容] 音楽経験についてのアンケート。知っている歌を階名で歌い、ピアノで弾く。発声について。「むすんでひらいて」を弾く。 [授業外学習] 歌って弾いた曲を復習する。			⑨	[テーマ] I-IV-I-V-I のカデンツ [内容] 「おかえりのうた」「子ぎつね」「みつばちのマーチ」の弾き歌い。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。
②	[テーマ] 音階、音程、和音、和音の基本形と転回形 [内容] 音符と休符の名前、長さ、それらの組み合わせによるリズムを理解する。音階と階名、音程、和音を理解する。「ちょうちん」 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑩	[テーマ] I-V7-I、I-IV-I-V7-I のカデンツ [内容] 「しあわせなら手をたたこう」「せんせいとおともだち」の弾き歌い。 [授業外学習] 次回の小テストに向けた楽典の復習。弾き歌い練習。
③	[テーマ] カデンツ I-V-I、I-IV-I [内容] 和音の基本形と転回形を理解し、それらを見分け、転回形を基本形に戻すことができるようにする。「ぶんぶんぶん」 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑪	[テーマ] 楽典の基礎の確認 [内容] 楽典の基礎について的小テスト。最後の弾き歌い試験曲の選択。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。
④	[テーマ] V7を含むカデンツ [内容] ドミナント進行、サブドミナント進行を聴いて理解する。「むすんでひらいて」 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑫	[テーマ] コードネームの理解 [内容] コードネームについて理解する。「ひげじいさん」「大きな栗の木の下で」の弾き歌い。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。
⑤	[テーマ] 五線、音部記号、音名、譜表、全音と半音 [内容] 五線、音部記号、音名、譜表について理解する。「チューリップ」 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑬	[テーマ] コードネーム奏①基礎 [内容] コードネーム奏について。弾き歌い試験に向けた練習。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。
⑥	[テーマ] 長音階について [内容] 長音階による音の並びを理解し、いろいろな長音階を作れるようにする。「かたつむり」 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑭	[テーマ] コードネーム奏②応用 [内容] コードネーム奏の応用。両手伴奏の学習。弾き歌い試験に向けた練習。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。
⑦	[テーマ] 調号、さまざまな調のカデンツ [内容] 調号を理解し、様々な調のカデンツが弾けるようにする。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑮	[テーマ] 弾き歌い試験リハーサル [内容] 弾き歌い試験のリハーサルを行う。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。
⑧	[テーマ] I-V-I のカデンツの復習 [内容] 「メリーさんの羊」「おかたづけ」の弾き歌い。移調して弾く。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑯	[テーマ] 弾き歌い試験 [内容] 弾き歌いの実技試験を行う。 [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
定期試験の評価を50%、演習・実技30%、授業態度10%、出席10%として評価する。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	50%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技				◎	30%
授業態度				◎	10%
出席				◎	10%
関連科目					
教科書	二宮紀子著『子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社 小林義実監修『こどものうた100』チャイルド本社			参考書	
連絡先	連絡は教育企画室を通して行うこと。				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名		音楽表現Ⅱ Music Expression II			担当教員	岩淵 摂子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	幼稚園教諭1種免許、保育士資格
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
保育や教育の場において、音楽表現活動をより豊かに展開するために必要と考えられる基本的な知識と技術の習得を目指します。楽典の基礎を確認し、コード奏による子どもの歌の弾き歌い及び簡易楽器を用いた合奏を行い、保育及び教育現場での活用法を考えます。合唱やボディ・パーカッションを行うことによって、音楽表現の幅を広げます。最後に弾き歌い実技試験を行います。						
授業の一般目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育の現場で必要な伴奏法の知識や技能としてコードネームを学習し、コード奏による弾き歌いができるようにする。 ・手遊びやわらべうた、合唱、ボディ・パーカッションを行い、歌唱や楽器演奏による表現力を高める。 ・人前で発表する経験を積み、表現する楽しさを体験する。 						
授業の到達目標						
<input type="checkbox"/>	認知的領域					
<input type="checkbox"/>	情意的領域					
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	子どもの歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。簡易楽器の奏法を身につける。				
授業計画(全体)						
全ての回を通じて、ピアノ弾き歌いのレッスンをを行い、よく使われるコード伴奏による弾き歌いの力を高める。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、楽典の基礎、わらべうた [内容] 授業の説明。わらべうた、手遊び。楽典の基礎知識を確認する。発声の基本を習得する。挨拶の歌を歌う [授業外学習] 授業で行ったわらべうたを覚えてくる。				⑨	[テーマ] 合唱の発表 [内容] グループごとに合唱の発表を行う。 [授業外学習] グループごとに合唱の練習、弾き歌い練習。
②	[テーマ] コードネーム奏(1)ハ長調C、Gコード [内容] コードネーム奏の基本。C、Gコードによる伴奏。「かえるの合唱」「メリーさんの羊」「かたつむり」 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑩	[テーマ] ボディ・パーカッション [内容] ボディ・パーカッションを行う。グループごとに発表する。 [授業外学習] 弾き歌い練習。
③	[テーマ] コードネーム奏(2)C、G、Fコード [内容] C、G、Fコードによる伴奏。「きらきらぼし」「カメのえんそく」「やきいもグーちゃん」 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑪	[テーマ] 弾き歌い実技試験に向けて(1) [内容] ボディ・パーカッションを行う。弾き歌い実技試験の課題曲を発表する。「アイアイ」「あめふりくまのこ」 [授業外学習] 弾き歌い練習。
④	[テーマ] コードネーム奏(3)セヴンスコード [内容] セヴンスコードの理解。「とんぼのめがね」「うちゅうせんのうた」「くさいっぼん」「大きなくりの木の下で」 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑫	[テーマ] 弾き歌い実技試験に向けて(2) [内容] 弾き歌いの個人レッスン。「あわてんぼうのサンタクロース」「1ねんせいになつたら」 [授業外学習] 弾き歌い練習。
⑤	[テーマ] コードネーム奏(4)ハ長調 [内容] ハ長調のコードネーム奏。「ありさんのおはなし」「ゆき」「チューリップ」「コンコンシャンのうた」「はたけのボルカ」 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑬	[テーマ] 弾き歌い実技試験に向けて(3) [内容] 弾き歌いの個人レッスン。「大きな古時計」「おぼけなんてないさ」「世界中の子どもたちが」 [授業外学習] 弾き歌い練習。
⑥	[テーマ] コードネーム奏(5)ト長調、ニ長調 [内容] ト長調のコードネーム奏。「うみ」「こいのぼり」「山の音楽家」 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑭	[テーマ] 弾き歌い実技試験に向けて(4) [内容] 弾き歌いの個人レッスン。「きのこ」「さんぽ」「そうだったらいいのにな」 [授業外学習] 弾き歌い練習。
⑦	[テーマ] コードネーム奏試験、楽典の基礎知識の確認。 [内容] これまで学習した楽曲によるコードネーム奏の試験を行う。 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑮	[テーマ] 弾き歌い実技試験リハーサル [内容] 弾き歌い実技試験のリハーサルを行う。 [授業外学習] 弾き歌い練習。
⑧	[テーマ] 楽典の小テスト。合唱。 [内容] 楽典の理解度の確認のための小テスト。合唱曲を歌う。「ショショローザ」 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑯	[テーマ] 弾き歌い実技試験 [内容] 弾き歌い実技試験を行う。 [授業外学習]
成績評価方法(方針)						
定期試験の評価を50%、演習・実技30%、授業態度10%、出席10%として評価する。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	「音楽表現Ⅱ」は、ピアノ等の鍵盤楽器経験者、「音楽表現Ⅰ」を履修した方及び音楽を苦手と思っていない方を対象とします。 たくさんの子どもの歌を知っていること、歌えること、伴奏ができることが保育や教育の場においては大切です。コードネーム奏による伴奏法を習得し、できるだけレパートリーを増やすように心がけましょう。出席を重視します。
定期試験				◎	50%	
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技				◎	30%	
授業態度				◎	10%	
出席				◎	10%	
関連科目						
教科書	『うたのメルヘン』、『こどものうた100』、『保育士・幼稚園教諭・小学校教諭のためのピアノテキスト』				参考書	
連絡先	連絡は教育企画室を通して行うこと。					

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	テーピング Taping (P.A.)			担当教員	高橋陽介・小田桂吾・山口貴之・村上憲治
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
テーピングの理論・目的・効果・有効性について正しい知識を学習して、実技を通じてテーピングの実施技術を習得する。					
授業の一般目標					
スポーツ活動において使用されているテーピングを各身体部位に外傷予防、応急処置、再発予防のそれぞれの目的に応じた技術、技法を実践できる能力を身につける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	テーピングの目的を的確に説明できる。			
■	情意的領域	テーピングの効果を選手に指導できる。			
■	技能表現的領域	目的に応じたテーピングが巻ける。			
授業計画(全体)					
運動器の解剖学を理解し、テーピングの理論と実技を繰り返す。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介、テーピングの購入方法、授業の進め方、成績・評価の説明			⑨	[テーマ] 足関節テーピング⑥ [内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技
②	[テーマ] テーピング総論 [内容] 身体の解剖学的構造と傷害発生メカニズムとテーピング理論の解説と、テーピングの種類・目的・効果・有効性について説明			⑩	[テーマ] 足関節テーピング⑦ [内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技
③	[テーマ] テーピングとアンダーラップ [内容] テーピングの切り方や貼り方、アンダーラップの巻き方を説明			⑪	[テーマ] アーチテーピング [内容] 足部の構造について解説し、アーチテーピングの実技
④	[テーマ] 足関節テーピング① [内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技			⑫	[テーマ] 膝関節テーピング [内容] 膝関節保護のテーピングの実技
⑤	[テーマ] 足関節テーピング② [内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技			⑬	[テーマ] 肘関節テーピング [内容] 肘関節保護のテーピング実技
⑥	[テーマ] 足関節テーピング③ [内容] 足関節テーピングのテクニックであるホースシューとサーキュラーの実技			⑭	[テーマ] 指関節テーピング [内容] 指関節保護のテーピング実技
⑦	[テーマ] 足関節テーピング④ [内容] 足関節テーピングのテクニックであるヒールロックとフィギュアエイトの実技			⑮	[テーマ] 実技試験① [内容] 学んだテーピングの実技評価
⑧	[テーマ] 足関節テーピング⑤ [内容] 足関節テーピング一連の流れの実技			⑯	[テーマ] 実技試験② [内容] 学んだテーピングの実技評価
成績評価方法(方針)					
実技テスト90%、出席率10%で評価する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	実技であるので、技能の習得ができない場合の単位認定は認めない。
定期試験				評価対象外	
授業内レポート				評価対象外	
授業外レポート	○			有	
演習・実技	◎		◎	90%	
授業態度				減点有	
出席		◎		10%	
関連科目	コンディショニング論、コンディショニング実習				
教科書	なし			参考書	日本体育協会公認アスレティックトレーナーテキスト⑥
連絡先	高橋研究室 4体1階				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	レクリエーション実技 I			担当教員	小池・高崎
	Practical Skill on Recreation I (P.A.)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要 レクリエーション指導・支援者は、単にレクリエーション種目(レクリエーション財)を伝達するだけではない。そのことによって人間同士のふれあいを促進し、新しい集団づくりをすすめて、価値ある人生と社会への一步を築く方向性めざす人達に対して支援を行う。ここでは、レクリエーション指導・支援者として必要な基礎実技を体験学習し、その基礎を習得する。学校の授業や事業、地域レクリエーションなどでの支援能力を養成する。					
授業の一般目標 実際の体験を通して、様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	レクリエーションについて説明できる。特に、レクリエーション種目(レクリエーション財)について。				
■ 情意的領域	様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる				
■ 技能表現的領域	ゲームやニュースポーツ種目などを楽しむ技術を身につける。				
授業計画(全体) 基本的に2名の教員が7回の授業(2ラウンド)を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、グループ分け			⑨	[テーマ] 体力づくりゲーム [内容] 学校体育で展開されている体力づくりの内容をゲーム化して紹介する
②	[テーマ] 室内ゲーム1 [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングを紹介する			⑩	[テーマ] 体解しゲーム [内容] 学校体育で展開されている体解しの内容をゲーム化して紹介する
③	[テーマ] 室内ゲーム2 [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングで、前回とは異なる内容を紹介する			⑪	[テーマ] 生涯スポーツ1 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:インディアカ)
④	[テーマ] 福祉レクリエーションを意識した活動 [内容] 高齢者や障害者などの対象に合わせたレクリエーション活動			⑫	[テーマ] 生涯スポーツ2 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:ペタンク)※インドア、アウトドア両方
⑤	[テーマ] コミュニケーション・ワーク [内容] 遊び環境を通して多様なコミュニケーションスキルの体験			⑬	[テーマ] 生涯スポーツ3 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:フライングディスク)※ゴルフ、アキュラシー
⑥	[テーマ] レクリエーションダンス [内容] 子どもの発育・発達を目的としたレクリエーションダンス			⑭	[テーマ] 生涯スポーツ4 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:ユニバーサルホッケー)
⑦	[テーマ] 身近なものを用いたレクリエーション [内容] 新聞紙等を用いたレクリエーション種目(レクリエーション財)の体験			⑮	[テーマ] 生涯スポーツ5 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:チャレンジ・ザ・ゲーム)※4種目
⑧	[テーマ] 室外ゲーム [内容]			⑯	[テーマ] 総括 [内容] 体験学習したレクリエーション種目(レクリエーション財)を各自がレクリエーション実技ノートにまとめて指定された期日までに提出する
成績評価方法(方針) 基本的に2名の教員が7回の授業(2ラウンド)を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験				評価対象外	
授業内レポート	◎	○		40%	
授業外レポート				評価対象外	
演習・実技	○	○	◎	20%	
授業態度				減点あり	
出席				40%	
関連科目					
教科書	特になし			参考書	
連絡先	各教員の研究室				

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	ボランティア活動実践A				担当教員	高崎 義輝
	Voluntary Activity Practice A					
開講内容	学年・学期	1・通年	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。						
授業の一般目標						
社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。				
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。				
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。				
授業計画(全体)						
ボランティア活動を実施するためのボランティア登録、ボランティア保険への加入、ボランティア講座の受講について説明する。その後、年間を通したボランティア活動を実施する。終了後に、レポートを提出し、ボランティア活動の意義や到達度を確認し、ボランティア活動の内容と併せ、実習単位の1単位分として評価し認定する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
【ボランティア活動の意義と実践】						
1, ボランティア活動を実践するための手続きについて						
①ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)						
②ボランティア保険への加入						
③ボランティア講座の受講 (「ボランティアとは」「ボランティアをする前に」「活動上の留意事項」「活動紹介」「ボランティアセンターとコーディネーター」等について説明する。)						
2, ボランティア活動実践						
①学内における障害を持つ学生の支援						
②地域における高齢者、障害児・者支援						
③学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等						
④海外への物的支援等への参加						
3, 活動中、活動後のルールについて						
4, 単位認定と報告(活動後のまとめとレポート)						
注意事項 このボランティア活動実践Aは、第1学年に在籍する学生のみを対象とする。A~Dの中から複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。						
成績評価方法(方針)						
この授業科目は、学内外を中心とする障害者・高齢者等の健康支援や福祉支援、小中高での学習支援や諸活動支援、また地域における各種のスポーツ・レクリエーション支援など多岐にわたるボランティア活動を行う。活動に伴うセンター登録、事前研修講義、ボランティア保険の加入、規定回数(時間)の完全実施、活動後のまとめとレポート等の提出を中心に成績評価を行う。一連の実践活動を完遂して評価「認定」を認める。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から計画的な実践を目指すこと。 ・ボランティア登録、保険(¥300/年)の加入、講座の受講は必須事項である。 ・対象学年以外の実習登録は認めない。 ・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。 ・ボランティア実施上のルールを守ること。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート	○	○	◎		50%	
演習・実技	◎	◎	◎		50%	
授業態度						
出席	◎	◎	◎			
関連科目						
教科書					参考書	
連絡先	高崎研究室					

2017年度 子ども運動教育学科

授業科目名	海外短期研修A			担当教員	国際交流センター長
	Brief Seminar Abroad A				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
<p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。 なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p>					
授業の一般目標					
<p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。			
■	情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。			
■	技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。			
授業計画(全体)					
<p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p>					
授業テーマとその内容					
<p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。 各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ科学事情比較セミナー デンマーク リレベルト大学他 デンマーク国における健康教育プログラム フィンランド カヤニ応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム 台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学 タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム ベトナム ハノイ大学 福祉・リハビリ・異文化交流留学研修 中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム 韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム ニュージーランド カンタベリー大学 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p>					
成績評価方法(方針)					
<p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p>					
成績評価方法(詳細)					
到達目標					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと 研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること 本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。 4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修(4科目4単位)までとする。 日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。
定期試験					
授業内レポート	○		○	10%	
授業外レポート	○		○	10%	
演習・実技		○	○	30%	
授業態度		○		50%	
出席				欠格条件	
関連科目	海外短期研修B・C・D				
教科書	各研修の担当者が指示する			参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp				